

体験の風を
おこそう

令和2年度

所 報

—事業の成果と記録—



独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家

はじめに

令和2年度は新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けた1年でした。

政府の緊急事態宣言を受けての利用者受入れ停止や利用団体からのキャンセルなど、利用者数は約2万4千人と例年を大幅に下回り、また、教育事業も中止や規模縮小など当所の運営は大変厳しいものとなりました。

今年度の所報は、コロナ禍における当所の事業運営及び管理運営の活動の中から、特に感染拡大防止対策などを記録し、また事業成果として発信すべきものを取りまとめました。関係の皆様には、ご一読いただき、ご意見、ご感想をお聞かせいただければ幸甚に存じます。

まず、新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、機構が制定したガイドラインに基づき施設独自のガイドラインを制定するとともに「新型コロナウイルス感染拡大防止対策による施設利用ハンドブック」を作成し、ホームページ等で公開しました。利用予定団体に対し「新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた施設利用者説明会」を開催するなど、利用団体が安心して利用・活動できるよう対策を講じました。

また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で、施設利用をキャンセルせざるを得なかった学校や団体等に対して、「出張！諫早自然の家！！」を実施し、当所職員が出向き感染防止対策を講じたうえで様々な体験活動の機会を提供しました。

教育事業では、「地域の教育的課題に対応するプログラム」（特色化準備）推進事業として、本所が誇る“沢登り”に着目し、専門家を交えた教育的効果の検証を取り入れるとともに、本所が提供している“イニシアティブゲーム”と連携させた教育事業「シャワークライミングキャンプ」を実施しました。新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により少人数での開催や、台風接近により1泊2日の事業を日帰りに変更するなど、当初計画を大幅に変更しての実施となりましたが、一定の成果を上げることができました。今後、専門家の意見も踏まえ、各年齢層や活動の目的に応じた活動コースの開拓などを進め、さらに充実した活動プログラムとしていく予定です。

さらに、昨年度から毎月第3日曜日に実施している「キャンプの日」は、新型コロナウイルス感染拡大や天候により中止した月もあるものの、多くの家族の皆様が参加し、キャンプを楽しんでいただきました。また、参加者増に対応するため、たき火やテント設営ができるよう自然環境学習館周辺を整備し、活動スペースの確保にも取り組みました。

最後に、本所の事業運営及び管理運営にあたってご支援、ご協力をいただいた長崎県や諫早市をはじめ近隣自治体、関係団体、その他多くの組織、ボランティア、地域の皆様に心より感謝申し上げます。

令和3年3月 国立諫早青少年自然の家 所長 中島 修

<目 次>

I 教育事業の報告

1. 「地域の教育的課題に対応するプログラム」（特色化準備）推進事業……………	2
「シャワークライミングキャンプ」	
2. 普及啓発事業（他施設との連携事業）……………	6
「タラッキーキャンプ（秋編）」	
3. 地域力向上事業……………	9
「イングリッシュキャンプ」	
4. 指導者養成事業……………	12
「グループをチームに育てるプログラム研修会（体験編）」	
5. 特別研修支援……………	16
「諫早市少年センター 自然体験活動」	
6. 子供の貧困対策事業（「生活・自立支援キャンプ」）……………	21
「第2回 わくわくチャレンジキャンプ」	
7. 出前事業……………	26
「出張！諫早自然の家!!」	
8. 研修支援……………	29
「キャンプの日」	
9. 令和2年度事業実績一覧……………	33

II 事業・管理運営の記録

1. 令和2年度利用実績	
(1) 利用者数・利用団体数・稼働率……………	34
(2) 平成25年度から令和2年度までの利用者数・利用団体・稼働率……………	35
(3) 団体種別利用状況……………	36
(4) 県別利用状況……………	37
(5) 県ごとの団体種別利用実績	
(6) 長崎県内市町ごとの利用状況……………	38
(7) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績	
(8) 宿泊日数別利用状況……………	39
(9) 利用者アンケート	
(10) 活動プログラム別利用状況	
(11) 開所からの利用状況……………	40
(12) 傷病発生状況……………	41
2. 利用者の安全及びサービス面の向上のために（主な工事・施設保全・物品購入の状況）…	42
3. 新型コロナウイルス感染拡大防止対策……………	45
4. 令和2年度施設業務運営委員……………	50
5. 組織図・職員名簿（令和3年3月現在）……………	51

III 参 考

令和3年度事業計画……………	52
----------------	----

I 教育事業の報告

1. 「地域の教育的課題に対応するプログラム」(特色化準備) 推進事業

「シャワークライミングキャンプ」

令和2年9月5日(土)(台風接近に伴い日帰りに短縮)

【担当: 松元 延行】



(1) 事業の背景

(独) 国立青少年教育振興機構の令和3年度から始まる第4期中期目標期間(令和3～7年度)では、多様化、複雑化する青少年に関する諸課題の解決のために、地域の実情に応じたプログラム開発や分析、普及などの事業展開を行っていくこととしています。

その前年度である今年度は、各都道府県が策定している教育振興基本計画や、市区町村が策定している学校教育振興計画や生涯学習推進計画等を十分に踏まえ、地域に寄与できるプログラムを開発又は更に充実させるための特色化準備事業を実施することとなりました。

本所がある長崎県の教育的課題として、第三期長崎県教育振興基本計画(2019～2023年度)においては、現状と課題として「少子高齢化や過疎化、地域における人間関係の希薄化は、子どもたちの集団生活を通して培われる協調性・道徳性・規範意識の育成に大きな影響を与えています」とあります。また、第2期諫早市教育振興基本計画(平成30年～平成34年度)においては、「体験(さまざまな自然体験、社会体験)が少なくなっている今、子どもたちの忍耐力や自立心、主体性、協調性等を育むために、自然体験や集団生活体験、勤労生産体験などの体験活動を推進していきます」とあります。

このような地域の現状の中で、各年齢期の課題として、特に小学5年生を例にすれば、本所を利用する学校団体の引率者から「協力という言葉は理解していても行動が伴わない」ことが課題であるという声が聞かれ、体験から協力することを学ぶ活動が利用団体のニーズとして大きいことを施設として把握しています。

今回、本事業を進めるにあたり、本所が誇る“沢登り”のプログラムに着目し、専門家を交えた教育的効果の検証を取り入れるとともに、本所が利用団体に提供している“イニシアティブゲーム”と連携させた教育効果の高い活動となるようプログラムの拡充を進めることとしました。

(2) 事業の趣旨

小学校5年生の子供たちが、自然体験活動などを通して、自然体験への関心を高めるとともに、友達と協力することの大切さに気付く。

また、当施設の活動プログラムにある沢登りとイニシアティブゲームの教育効果を整理する。

(3) 目標

- ① 積極的に友達と関わり、協力して活動することができる。
- ② 自然の大切さや、自然の中で体を動かす楽しさを知る。

③ 自分の周りにいる人や物、自然に対して、感謝や思いやりを持った行動ができる。

(4) 対象

小学校5年生 30人

(5) 事業の実施

① 期日

月 日	内 容
6月12日	・専門家との打合せ (特色化の方針、事業趣旨の共有、事業実施の留意点について)
8月14日	・専門家との事前踏査、打合せ (安全指導、指導方針、“協力する”ことに対する認識(意識・行動)の共有、沢登りの教育効果、活動内容、安全管理・安全指導等について)
9月5日	・事業の実施 ※台風接近に伴い日帰りに短縮
9月～2月	・新たな沢登りコースの開拓 ・活動用具、装備(ライフジャケット)の購入
2月27日	・専門家検証会議 (事業及び今年度の取組報告、来年度以降の取組確認)

② 参加者

男女別・学年別内訳

	男	女	計
5年生	3	6	9

③ 日程

9月5日(土)	
9:00	受付
9:30	始まりの会
10:00	イニシアティブゲーム
12:00	昼食
13:00	沢登り(深海川コース)
17:00	振り返り
17:30	終わりの会・解散

④ 活動の様子



【イニシアティブゲーム】

この後の沢登りを意識して活動に入れるように「全員が協力して困難な岩場を登るためにどんな行動が必要か」を考えてからゲームを行いました。

この話合いをきっかけに一人一人が持っている知恵を出し合い、全員の協力のもと様々な課題を解決しようとする姿が見られるようになりました。

ゲームを行う中で、最初は失敗の連続だったが、課題を解決するために何度も話し合う姿が見られました。



【沢登り】

ライフジャケットとヘルメットを装着し、準備体操、安全指導を終えて、沢登りに挑戦しました。ごつごつした岩や石、進路を塞ぐ倒木もある中、互いの腕を引き寄せたり、後ろから背中を支えたり、先行者が腿を曲げ足場にし、その足場を踏み越えたりしながら、全員が脱落することなく一番難しい「深海川コース」を踏破しました。途中の滑落しそうな場所では、後ろの人に声を掛け合ったり、自分に自信がない参加者が、正直に自分の不安な気持ちや、手伝ってほしいという意思表示を行ったりする場面も見受けられました。

(6) 評価

① アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

- ・次に行くときはもっと難しい場所にチャレンジしたい。そして仲間と助け合いたい。
- ・人と協力して何かをすることのおもしろさや大切さを学ぶことができました。
- ・岩場を登れないときに、みんなが優しく足場を教えてくださいました。みんな人を大切にしているので、僕も真似したいです。

(7) 成果と課題

① 成果

この事業では、子供たちに自然体験活動を行ってもらう目的の他に、小学校5年生の集団宿泊合宿で実施するモデルプログラムを作るため、イニシアティブゲームと沢登りの組合せ方について検証し、どのような活動の流れにすれば良いか考えることを目的としていました。

そして、参加者は「積極的に友達と関わり、協力して活動する」、「自然の大切さ、自然の中で体を動かす楽しさを知る」、「自分の周りにいる人や物、自然に対して、感謝や思いやりを持って行動する」の3つのめあてを持ち活動しました。

参加した子供たちからは、「沢登りは、滑りやすいところもあって難しかったけど、楽しかったです。」「話合いでたくさん意見を出しました。助け合いや協力をしていて気持ち

ちよかったです。」「友達もたくさん作れたし、いろいろなことにチャレンジできてとてもよかったです。」などの感想が出ており、子供たちの目標は概ね達成することができました。

また、イニシアティブゲームと沢登りの組合せ方は、ゲームの中身ではなく、活動時にどのような言葉かけや集団の雰囲気構築していくのが重要だとの認識を持ちました。

特色化の準備としては、来年度からの大まかな5か年計画を作成したことにより、来年度から本格的に特色化を推進していく土壌が構成できたと考えます。

② 課題

今年度の事業では、新型コロナウイルス感染症の拡大により、感染リスクを恐れ、事業参加者が集まらなかったことが残念な点でありました。応募後にも、8月下旬の感染拡大に伴い、参加辞退の連絡を受け、結果として9名の参加者で事業を実施することとなりました。

また、事業実施期間に台風が九州に接近したため、1泊2日の事業を日帰りに変更せざるを得なかったことも大きな損失でありました。台風が接近してくる中での事業実施であったため、専門家とともに実施可否を考えましたが、先述の新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、延期することも難しいと判断し、日程を短縮して実施に踏み切りました。宿泊を通じた体験で子供たちがより大きく変容することを把握しなかったのですが、それができず、大変残念でした。

③ 今後の展望

当事業を実施するための外部専門家検証会議は、今後も、様々な分野の専門家を加えながら、特色化の効果を検証していきたいと考えています。

また、当所で策定・拡充した活動プログラムを実施した団体のフィードバックを得られる方策を検討したいと思います。団体へ指導を行う職員が感じた事も大事にしながら、プログラムの改良を行っていく予定です。

そして、現時点では、小学校5年生での自然体験教室での活用を想定していますが、パッケージプログラムの構築や各年齢層や活動の目的に合わせた活動コースの開拓などを進め、各年齢期に合わせたパッケージプログラムを作成する予定です。

2. 普及啓発事業

タラッキーキャンプ（秋編） ～あきとなかよし！～

令和2年9月12日（土）～13日（日）

【担当：小野 栄策】



（1）事業の背景

子供の問題行動等が教育上の重要な課題として指摘されています。人間関係をうまく作れない、集団生活に適応できない子供の増加やいじめの陰湿化に代表される規範意識の低下、物事に創意をもって取り組む意欲の欠如、いわゆる「キレる」子供の問題などです。これらの要因として、自然や地域社会と深く関わる機会の減少、集団活動の不足、物事を探索し吟味する機会の減少、地域や家庭の教育力の低下などが挙げられます。

このような最近の子供たちをめぐる課題に対しては様々な観点から対策を講じる必要がありますが、体験活動が果たす役割は大きいと考えられます。特に自然の中での宿泊体験活動は、集団生活の中で協調性・自律性を育み、課題発見能力や問題解決能力を高め、学びの意欲を促進し、幅広い年齢層との多様な交流の機会を得るなどの効果があります。

そこで、本事業ではハイキングやクラフト工作などを自然の中で行うことを通して、自分たちの手で作品を作り出す楽しさや、自然の中で過ごす楽しさを味わうことで、子供たちが自然体験活動に興味を持つきっかけとします。また、低学年の子供たちが親元を離れ、公共の施設である自然の家でのルールやマナーを守り、規則正しい生活をするすることで、社会性や自立心を育て、「早寝早起き朝ごはん」の定着を促します。

（2）事業の趣旨

秋の自然を感じるハイキングやクラフト工作などの自然体験活動を通して自然に親しむ心を育む。また、異年齢集団の中で小グループを作り、規則正しい生活を送る中で社会性や自立心を育て、「早寝早起き朝ごはん」の定着を促すとともに、自然体験活動における成功体験を積み重ねることによって自他を大切にできる心や積極性、協調性を育む。

（3）目標

- ① 自然の大切さや、自然の中で活動する楽しさを知る。
- ② 自然の家のルールやマナーを守り、規則正しい生活を送ることができる。
- ③ 積極的に友達と関わり、協力して活動することができる。

（4）対象

小学1・2年生 30名

（5）事業の実施

① 期日

令和2年9月12日（土）～9月13日（日） 1泊2日

② 参加者

男女別・学年別内訳

	男	女	計
1年生	5	4	9
2年生	9	7	16
合計	14	11	25

③ 日程

9月12日(土)		9月13日(日)	
14:00	受付	6:30	起床
14:30	はじまりの会・仲良くなるゲーム	7:30	朝食(レストラン)
15:15	ハイキング	9:00	森のペンダント作り
17:15	夕食(レストラン)	11:00	おわりの会
18:30	入浴	11:30	解散
19:30	ベッドメイキング・読み聞かせ		
21:00	就寝		

④ 活動の様子



【はじまりの会・仲良くなるゲーム】

はじまりの会では、キャンプの約束事である「安全に過ごすこと」「たくさんの友達をつくること」「自分のことは自分ですること」を確認しました。

仲良くなるゲームでは、友達と打ち解けあい、今後の活動に生かせるように、グループに分かれて「自己紹介ゲーム」や「伝言ゲーム」などをスタッフと一緒に行いました。



【ハイキング】

初秋の自然を探しにハイキングへ出かけました。グループには出発前に「周辺にいる動植物に目を向けること」「危険生物やけがに注意すること」「次の日作るペンダントの材料も一緒に集めてくること」などを確認し、出発しました。天気にも恵まれ、子供たちはたくさんの動植物に出会うことができ、とても満足感があふれているように見えました。



【読み聞かせ】

スタッフが一冊ずつ、秋をテーマにした絵本の読み聞かせを行いました。声色を変えたり子供の反応を伺いながら読み進めたりするなど、子供たちが本に興味を持つように工夫しました。「まだ読んで」「おもしろかった」と答える子供たちの姿がありました。



【森のペンダント作り】

前日集めた材料を生かして、オリジナルのペンダントを作りました。けがに注意し、班で協力して楽しく活動に取り組む姿が見られました。きりで穴を開けたり、グルーガンで木の実を取り付けたりして、素敵な作品に仕上げました。「お母さんに見せる！」と自慢げに作品を披露していました。

(6) 評価

① アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
92%	8%	0%	0%

② 参加者の声

- ・キャンプでは何をするのかわからなかったけど、ハイキングやペンダント作りや泊まったり食事をしたり、お風呂に入ったり読み聞かせがあったり楽しかったです。
- ・またこのキャンプに参加して、たくさん遊びたいです。
- ・キャンプが楽しいことを知りました。
- ・いっぱい友達ができてよかったです。
- ・ハイキングの時、赤い毒キノコがありました。毒キノコは、初めて見ました。
- ・ママに僕が作った首飾りをあげたいです。

(7) 成果と課題

① 成果

宿泊体験がはじめての子が多く、キャンプに不安を感じていたようでしたが、スタッフや新しい友達にもすぐに慣れ、積極的に活動していました。2日間を通して、ベッドの準備や荷物の整理、清掃、お風呂や食事の後片付けなどを自分たちでできるように声かけをしました。少人数の中、ゆっくりと時間をかけて行った結果、スタッフの援助を必要とせずに、集団生活のルールをしっかり守ることができました。上級生の子供たちが下級生の子供たちを率先して手伝う姿がたくさん見られました。

② 課題

低学年の子供たちにとって、この時期に徹底した集団規律を育むことはとても大切であり、今回のキャンプで目標に掲げた、仲間意識、規範意識、自然体験活動の充実は継続して行っていく必要があります。子供たちの行動の中で、食事のマナーや時間を意識した行動に課題を感じました。今後は、少しずつプログラム内容を変えつつ、子供たちの実態に応じた体験学習を行っていく必要があります。

③ 今後の展望

ニーズの高い事業であり、他の子供向けキャンプの入門編のような位置づけとなっているので、継続的に行っていきたいと考えています。また、このキャンプをきっかけに、子供たちにどのような変容があったのかを知るために保護者を巻き込んだ活動内容を考えていきたいです。

3. 地域力向上事業

諫早市教育委員会委託事業 「イングリッシュキャンプ」 ～野外であそびながら英語を学ぼう～

令和2年10月17日（土）

【担当：大嶋 和幸】



(1) 事業の背景

新小学校学習指導要領（平成29年3月告示）において、中学年に外国語活動、高学年に外国語科が導入されました。外国語活動の目標1-（1）には、「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする」と明記され、外国語活動での体験学習の重要性が示されています。また、当機構の令和2年度教育事業等方針においても、青少年に係わる国の政策課題として、小学校の外国語活動が取り上げられています。

そこで、本所では、平成30年度から諫早市教育委員会の委託を受け、小学生を対象として、1泊2日のイングリッシュキャンプで実施しています。

今年度も当初は1泊2日で計画をしましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、委託元との協議の結果、日帰りでの開催となりました。

(2) 事業の趣旨

自然の中で、英語を聞いたり話したりする活動を通して、外国人との交流や英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させる。

(3) 目標

- ① 英語を用いて、主体的にコミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知る。
- ② 英語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気付く。

(4) 対象

諫早市内の小学3・4年生 30名

(5) 事業の実施

① 期日

令和2年10月17日（土）

② 参加者

諫早市内全28校のうち10校から29名が参加

	男	女	計
3年生	10	9	19
4年生	3	7	10
合計	13	16	29

③ 日程

10月17日（土）	
9:00	受付
9:15	始まりの会、仲良くなるゲーム ・アイスブレイク、自己紹介ゲーム等
10:00	英語を用いた活動 ・色や形をさがそう
10:45	葉っぱのスタンプ ・オリジナルエコバッグを作ろう
12:00	昼食（レストラン）
13:00	振り返り、終わりの会
13:30	解散

④ 活動の様子



【始まりの会・仲良くなるゲーム】

出会いの時間では、はじめは緊張した表情でしたが、「3つの卵」や「拍手で集まれ」等の仲良くなるゲームで交流を深めていきました。写真は「同じ仲間集まれ」の様子です。「What color do you like?」の質問に元気に答えていました。



【英語を用いた活動】

当日は朝から雨が降っており、英語を用いた活動は屋内で行いました。ALT や諫早市教育委員会の先生と一緒に所内を回り、指定された色や形を探します。子供たちは、求める色や形を見付けると、その形を英語で表現しながら、仲間と喜びを分かち合っていました。



【葉っぱのスタンプ】

自然の中から集めてきた葉っぱをはんこ替わりにして、エコバッグに思い思いの色のスタンプをしました。子供たちはこれまでの活動で学んだ色や形の英語を使いながら、オリジナルの作品を作り上げました。



【振り返り・終わりの会】

お別れの時間です。終わりの会では、完成したエコバッグを班ごとに紹介しました。一緒に活動した ALT、諫早市教育委員会の先生方、スタッフが見送る中、子供たちは笑顔で帰宅の途につきました。

(6) 評価

① アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
93%	7%	0%	0%

② 参加者の声

- ・英語が使えてうれしかった。
- ・新しい英語を覚えたりゲームや活動があったりして楽しかった。
- ・何となく英語が好きになった。
- ・葉っぱのスタンプでマイバッグを作ったことが楽しかった。
- ・色や形を探すゲームが楽しかった。
- ・知らない人や友達ではない人と話したり、仲良くなったりすることを頑張った。
- ・ALT や市教育委員会の先生と会えてよかった。
- ・キャンプがこんなに楽しいとは思わなかった。
- ・楽しかったのでまた来たいです。

(7) 成果と課題

① 成果

委託元である諫早市教育委員会との協議を重ね、小学3・4年生を対象とした教科・領域と関連付けた活動として、英語のレベルを調整することができました。また、ALT や諫早市教育委員会の先生方が班に1人いたことで、自然に英語を使うような状況を作ることができ、ゲームなど、楽しく遊びながら英語を使う活動を取り入れたことで、子供たちは楽しみながら英語を話すことができました。

参加者の満足度も高く、外国人との交流や英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させるという事業の趣旨、目標をある程度達成することができました。

② 課題

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、活動時間が実質半日となったため、仲間づくりや英語活動、休憩に充てる時間を十分に確保することが難しく、一つ一つの活動が若干早足にならざるを得ませんでした。

③ 今後の展望

本事業の運営スタッフについて、時間に制約のあるALT だけでは、2日間を通して子供たちに外国人と交流する機会を十分に作る事が難しいと考えています。今後は、英語を母国語とする外国人留学生、英語教育を志す高校生・大学生ボランティアの活用等を検討していきます。

4. 指導者養成事業

グループをチームに育てるプログラム研修会 (体験編)

佐賀会場 令和2年12月19日(土)

長崎会場 令和2年12月26日(土)

【担当：大嶋 和幸】

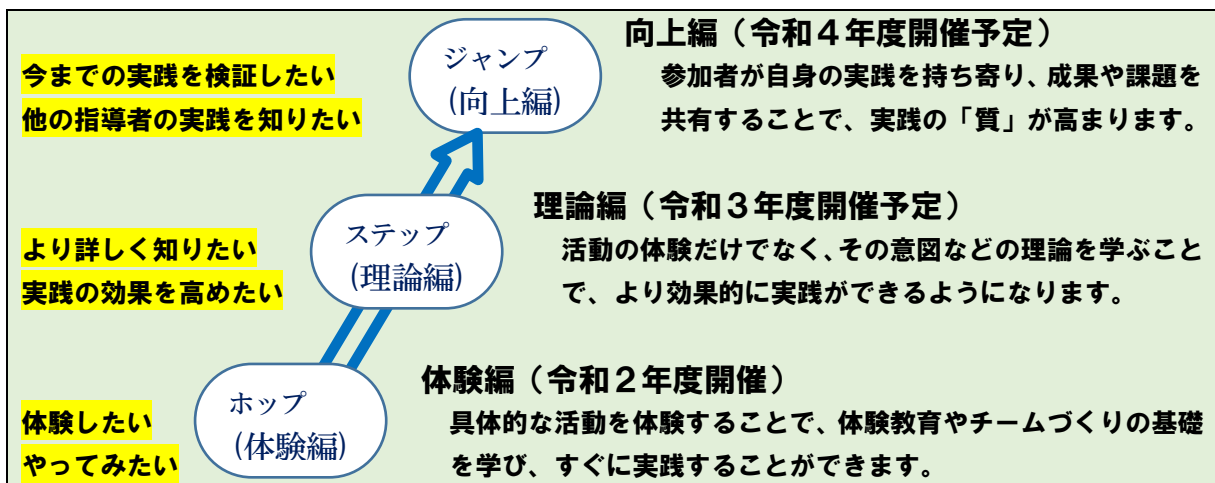


(1) 事業の背景

当所では、学級集団やクラブチームなどのグループづくり・人間関係づくりに役立つプログラムの一つとして、「プロジェクトアドベンチャー」などに代表される体験教育・アドベンチャー教育プログラムの実践・普及に力を入れています。

この教育プログラムは、「自己との対峙」「葛藤」「自分自身に対する挑戦」「仲間との協力」といったアドベンチャーの特性を生かし、人間が成長するための「気づき」を効果的に体験するための手法として開発された教育手法であり、積極的に挑戦する意欲や姿勢、困難な状況を乗り越えることにより得られる達成感など、自己肯定感の向上が期待できるものです。

そこで、3年間継続して受講することで、「体験教育・アドベンチャー教育プログラム」を自信をもって実践できる指導者の養成を目的とした事業を企画し、初年度となる今年度は、「体験編」を佐賀、長崎、福岡の3会場で4回実施することを計画しました。



(2) 事業の趣旨

グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して、基本となる手法や理論の習得を図る。

(3) 目標

- ① グループの力を生かす「体験学習法」について、理論的に説明できる。
- ② 「体験学習法」に基づいた活動プログラムを具体的に展開できる。

(4) 対象

学校教育関係者、社会教育関係者、企業研修担当者、大学生など

(5) 事業の実施

① 事業計画

会場	実施会場、日程等
長崎 1	実施会場：国立諫早青少年自然の家 開催日：令和2年5月23日(土) → 8月4日(火) → 中止 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大のため開催中止
佐賀	実施会場：佐賀県北山少年自然の家 開催日：令和2年5月30日(土) → 8月8日(土) → 12月19日(土) ※新型コロナウイルス感染症感染拡大のため開催日変更
長崎 2	実施会場：国立諫早青少年自然の家 開催日：令和2年12月26日(土)
福岡	実施会場：福岡県立社会教育総合センター 開催日：令和2年6月27日(土) → 令和3年1月6日(水) → 中止 ※新型コロナウイルス感染症感染拡大のため開催中止

② 参加者

会場	実施会場、日程等
佐賀	青少年施設職員 7名 PTA 役員等 11名 計 18名
長崎 2	教職員・保育士 6名 青少年施設職員等 3名 大学生 1名 計 10名

③ 日程

日程は各会場共通とし、参加者の構成、会場の状況に合わせて体験する活動プログラムを調整しました。

共通日程	
9:30	受付
10:00	開講式
10:10	セッション1…グループづくりの基盤 (約束事) ・アイスブレイク、コミュニケーション
11:15	セッション2…グループとチーム、チームの成長 ・イニシアティブの基礎 ・ビーイング作成、更新
12:00	昼食
13:00	セッション3…コンテンツとプロセス、体験活動サイクル ・イニシアティブ、トラスト
15:30	セッション4…振り返りの方法、指導者の役割 ・研修の振り返り ・理論説明
16:00	閉講式

④ 活動の様子

【セッション1】



【セッション2】



【セッション3】



【セッション4】



【セッション1】

初めに、グループづくりの基盤となる「心の安全」や「自己開示」のゲームを行い、参加者の心を解きほぐしました。初めは固かった参加者の表情は次第に笑顔になり、ゲームに取り組んでいました。

活動後には「フルバリューコントラクト^{*1}」や「チャレンジバイチョイス^{*2}」等、活動の基盤となる考え方についての講義を行い、理解を深めました。

*1 お互いの努力を最大限に評価する(認め合う)というグループ活動をする上での約束のこと

*2 個人の挑戦レベルとその方法は、自分自身が決定するという、活動を行う上での約束のこと

【セッション2】

セッション2からはセッション1で形成したグループで活動しました。

アイスブレイクを兼ねた自己紹介の後、「グループとチームの違い」や「チームの成長」についての講義を行いました。

その後、振り返りの手法の1つである「Being^{*3}」を活用して、個人及びグループの目標を設定し、比較的負荷の小さい「課題解決」のゲームをしました。参加者は、グループのメンバーと少しずつ打ち解けはじめ、会話も増えていきました。

*3 体験を通して得られた気づきや学びを模造紙等へ書き込み、メンバー間で共有する振り返りの方法のこと

【セッション3】

初めに体験活動プログラムの基盤となる「体験学習法」についての講義を行いました。

その後「体験学習サイクル^{*4}」を体験するゲームや、仲間と協力することが成功の鍵となるゲームなど、様々なゲームを行い、理論と実践をつないでいきました。

参加者は一つ一つ活動の意図を考えながら、真剣に取り組み、グループがチームになる過程を体感されていました。

*4 体験からの学びを分かりやすくモデル化したもの

【セッション4】

最後に、体験を次の行動につなげるための「振り返り」の方法や、グループの活動をファシリテートし、チームに育てるための指導者の役割等についての講義を行い、研修を締めくくりました。

研修を終えた参加者は、皆、充実した表情で会場を後にしました。

(6) 評価

① アンケート結果（研修全体に対する満足度）

会場	満足	やや満足	やや不満	不満
佐賀	89%	11%	0%	0%
長崎 2	90%	10%	0%	0%

② 参加者の声

- ・共通の目的のため、協働するチームにするための方法を具体的に学ぶことができた。
- ・グループを作った5人との距離がスタート時点と比べて確実に縮まり、グループがチームになることを体感することができた。
- ・「グループ」から「チーム」への成長曲線を知り、今の自分の状態がどこなのかを冷静に考えることができた。
- ・改めて自分で実践してみたい、誰かに話したい、職場で（大人相手に）導入したい内容ばかりで、非常に学びのある1日でした。
- ・各活動を通して自分のこと、他人のこと、集団やチームについてなど様々なことを考えて、表現しながら整理できた。
- ・一つ一つの活動が単純に楽しく、子供に返ったように楽しめた。楽しいだけでなく学びにもつなげられた。

(7) 成果と課題

① 成果

参加者の満足度は高く、今後活用していきたいという声が聞かれたことから、本研修会が体験学習プログラムの普及に一定の効果があることがわかりました。また、指導に当たる主担当以外の職員がスタッフとして参加することで、職員のスキルアップにつながりました。

② 課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあり、参加者が思うように集まりませんでした。また、開催日が年度後半に変更になったことから、学校現場での活用のタイミングが難しいという指摘がありました。今後は、より多くの学校関係者、青少年教育施設関係者等へ普及していくための広報の在り方、参加者の確保の方策を検討していく必要があります。

③ 今後の展望

当初の計画では、次年度は体験学習プログラムをより深く学ぶための「理論編」を開催予定でしたが、体験学習法の普及のためには、裾野を広げることのほうが重要と考え、次年度も「体験編」を実施していきたいと考えています。また、実施会場等についても、より参加しやすい方法を検討していきたいと思っております。

5. 特別研修支援

「諫早市少年センター 自然体験活動」

令和2年 6月 2日(火)
6月 3日(水)
9月11日(金)
10月 1日(木) ~ 2日(金)
11月17日(火)
12月 8日(火)
令和3年 2月 2日(火)

【担当：小野 栄策】

(1) 事業の背景

諫早市では、平成元年度「不登校児童生徒対策事業」の一環として、同市少年センター内に「教育相談室」を設け、相談業務を開始し、平成6年8月から適応指導教室「ふれあい学級」を開設しました。「ふれあい学級」では、通級する不登校児童・生徒に対して個別の相談・指導を行い、小集団による体験活動等を通して、集団生活への適応を図るとともに、学校復帰への支援を行っています。

諫早市少年センターでは、不登校傾向にある児童・生徒の社会性や協調性、忍耐力などを育むために自然体験活動を重視し、学校復帰支援事業として、本所において年7回の自然体験活動を継続的に実施しています。本所との連携を図ることで、子供たちの実態に即したより教育効果の高い活動の展開を行っています。

(2) 事業の趣旨

諫早市少年センター内にある「ふれあい学級」は、不登校又は不登校傾向の児童・生徒を受け入れている。本所では、諫早市少年センターと連携して、人間関係を作る力、自己肯定感、忍耐力、自立心、感謝の気持ちなど学校生活に必要な力を身に付けさせるため自然体験活動を中核とした自立支援キャンプを実施する。

(3) 目標

- ① 人と人との関わり合いを通して、協調性・自主性を育む。
- ② 自然体験活動において困難なことを克服させることにより耐性を育む。
- ③ 自然体験活動を通じて「人・もの・こと」に対する感謝の気持ちを育む。

(4) 対象

諫早市少年センターに通う生徒及び保護者（毎回10名程度）

(5) 事業の実施

① 期日

令和2年 6月 2日(火)	【日帰り】
6月 3日(水)	【日帰り】

9月11日(金)	【日帰り】
10月1日(木)～2日(金)	【1泊2日】
11月17日(火)	【日帰り】
12月8日(火)	【日帰り】
令和3年2月2日(火)	【日帰り】

② 参加者

内訳(児童・生徒、保護者、職員)

実施期日	児童・生徒	保護者	職員
6月2日(火)	3	1	4
6月3日(水)	3	2	3
9月11日(金)	10	3	3
10月1日(木)～2日(金)	6	0	2
11月17日(火)	11	1	5
12月8日(火)	9	3	5
2月2日(火)	14	3	6

③ 日程

	実施期日	主な活動	場所
1	6月2日(火)	ウォークラリー	ウォークラリーコース
2	6月3日(水)	藍染め体験	クラフト棟
3	9月11日(金)	沢登り	深海川コース
4	10月1日(木)	自然のオブジェ制作	クラフト棟
	2日(金)	野外炊事(カレー) 野外炊事(ピザ)	野外炊事場 野外炊事場
5	11月17日(火)	ディスクゴルフ マウンテンバイク	本館周辺の林 憩いの散策路
6	12月8日(火)	野外炊事(パン・シチュー)	野外炊事場
7	2月2日(火)	焼き板	ピロティ
		イニシアティブゲーム	屋内

④ 活動の様子

6月2日(火)

【ウォークラリー】

児童・生徒、保護者、職員全員で一つのグループになり、コマ図を見ながら森の中のコースを歩き、ゴールを目指しました。子供たちは地図のヒントを手掛かりに話し合いながら活動を進めていました。仲間と親睦を図りながらコースを巡ることができました。

(感想) コロナの影響もあったので、最近では運動をあまりしていませんでした。だから今日のウォークラリーは本当にきつくてへとへとになりました。ですが、自然にふれあう機会があまりなかったので、貴重な経験になりました。風が気持ちよくてとても楽しく運動することができました。

6月3日（水）

【藍染め体験】

藍染め教室の講師の指導のもと、染物作りに挑戦しました。布の折り方や輪ゴムの止め方を工夫することで、自分オリジナルの柄に染め上げます。お手本が目の前にあっても、真っ白い布にゴムを巻くだけでは、どんなふうに染め上がるのか分かりません。子供たちは想像を膨らませながら作っていました。

（感想）藍染め体験で、どんな風にゴムでとめたらどんな模様になるのか考えるのが楽しかったです。出来上がった作品もすごく良くてうれしかったです。

9月11日（金）

【沢登り】

子供たちに人気の沢登りということで参加者が多く、中学生主体の参加構成を考え、水深が深く巨岩が転がり、難易度も高い深海川コースに挑戦しました。安全管理のためライフジャケットとヘルメットを装着し、ペアを確認した後、全員ゴールを目指してスタートしました。参加者の体力の低下が心配されましたが、自分のペースを守り、励まし合い、助け合いながら無事全員ゴールすることができました。

（感想）沢を登るときは、水がとても冷たくて、首のところまで水がきたときは、とてもびっくりしました。岩が高いときは、みんなに上から引っ張ってもらいました。大変だったけど、みんなでゴールまで登ることができてよかったです。

10月1日（木）

【自然のオブジェ制作】

森の中を散策して、そこで見つけた木の実や葉っぱを用いて、木のオブジェを作りました。すでに少年センターには、過去の参加者が制作した作品が並べられており、作品のイメージをもって活動に臨めました。小学校低学年でも経験したことのある造形遊びを堪能することができました。

（感想）材料を集めるときから、他の通級生と協力して楽しく集めることができました。作る時も、みんなの作品などを参考にして作ることができました。とても楽しかったです。

【野外炊事（カレー）】

野外炊事では、まず、多くの子供たちが作った経験のあるカレー作りを行いました。グループに分かれて、薪を割って火を起こす子、食材を切って準備する子、食器やお米を準備する子など役割分担を行いました。スムーズに活動が進み、みんなで協力して作り上げる喜びや、屋外で共に食事する楽しさを味わうことができました。

（感想）カレー作りでは、みんなで協力してできたので良かったです。できあがったカレーはとてもおいしかったです。

10月2日（金）

【野外炊事（ピザ）】

2回目の野外炊事では、ピザ作りに挑戦しました。道具の準備や後片付け、材料の準備や火起こしなどは、すでに経験しているので自分たちで進めることができ、とても頼もしく感じました。はじめてピザ生地をこねる子が多く、継続的な力仕事に戸惑っていましたが、無事に発酵作業まで終わり、具材のトッピングも協力して行うことができました。自分たちで作ったピザを満喫しながら1泊2日のキャンプを終えることができました。

(感想) 薪割りや火起こし作業をし、生地を丸くするなど、初めてすることもありましたが、楽しく活動することができました。家にいることが多いので、今回の体験活動に参加することができてよかったです。

1 1月17日 (火)

【ディスクゴルフ】

この活動は、それぞれのホールのかごに向かってディスクを投げ、何投で入れたかを競うゲームです。まず、フライングディスクを投げる練習をし、同じ学年の子供たちが分散するようグループ分けを工夫して活動しました。活動時間に制限があったため、すべてのホールをまわることはできず、アップダウンの激しいコースで体力を使いましたが、子供たちは仲間と競う楽しさを味わっていました。

(感想) ディスクゴルフでは、みんな少ない回数でゴールすることができて、スムーズにいきました。いろいろなホールをまわることができてよかったです。

【マウンテンバイク】

安全指導を行ったあと、安全装備を着用し、所内の広場でマウンテンバイクに乗る練習を行いました。参加者の中には自転車に乗った経験のない子もいて、慣れるのに時間がかかりましたが、全員で所外の散策路コースに出発することができました。自然の中を自転車で走る爽快感や長距離を走破してゴールにたどり着く達成感を全員で味わうことができました。

(感想) 最初は、全く乗れなかったけど、先生とたくさん練習したら少しは乗れるようになったのでうれしかったです。

1 2月8日 (火)

【野外炊事 (パン・シチュー)】

パン・シチュー作りは、少年センターとして初めて挑戦した調理メニューでしたが、すでに作り方の類似したピザ・カレー作りを経験しているので、すぐに役割分担も決まり、スムーズに活動に取り組みました。時間をかけて作ったパンはとてもおいしく、出来立てのパンのあたたかさに舌鼓を打ちながら、会話も弾んでいました。

(感想) パン作りは、初めてだったけど、ピザ作りと似ていて、こね方によって硬さや柔らかさが違うのだなと思いました。みんなで楽しく仲良くできたのでよかったです。パンとシチューどちらもすごくおいしかったです。

2月 2日 (火)

【焼き板】

例年であれば、中学3年生は受験のため参加していませんでしたが、今年度は進路がすでに決まっていたため、多くの子供たちがこの活動に参加することができました。「木を焼きすぎた」と過去の失敗体験を先輩が紹介しながら、丁寧に作品を焼き上げていました。自分の名前を書いたり、好きな言葉を記したりして思い出の作品を仕上げました。

【イニシアティブゲーム】

今年度、時間がなくて行えなかったイニシアティブゲームを活動の締めくくりとして行いました。同じ学年や、同じ学校の仲良しメンバーで固まる傾向があるため、バラバラになるようにグループを決めて、様々なゲームを行いました。ジャンケンゲーム、リズムゲーム、クイズゲームを行うなかで、コミュニケーションの苦手な子供たちも、徐々に活動を楽しむ姿が見られました。

(6) 評価

アンケート結果（他の通級生と仲良く力を合わせる事ができたか）

	よくできた	だいたいできた	あまりできなかった	できなかった
Aさん（6回参加）	100%	0%	0%	0%
Bさん（5回参加）	80%	20%	0%	0%
Cさん（5回参加）	100%	0%	0%	0%
Dさん（4回参加）	100%	0%	0%	0%
Eさん（3回参加）	67%	33%	0%	0%
Fさん（3回参加）	100%	0%	0%	0%

(7) 成果と課題

① 成果

「自然の家に行くことを楽しみにしています」「自然の家では自分にはない何かを見つけられそうです」「家や少年センターではできない体験がここに来ればできそうです」といった参加者や引率者の声を聞くことができました。自然の家での活動が、日々の子供たちの生活や気持ちに変化をもたらし、良い刺激になっています。

年間7回の活動を行っていくうちに、保護者、支援ボランティアを含めた参加者も増え、「最後まで頑張ってやり遂げた」「友達との会話が増えた」「力を合わせて活動できた」といった子供たちの成長がたくさん見られるようになりました。このような変容をしっかりと見届け、調査・分析も行いながら支援の充実を図っていきたいです。

② 課題

子供たちの特性として、「自分で決められない」「人との関わりが極端に苦手」「一人での作業は黙々と行える」などがあげられます。そこで、自主性・協調性を養えるグループ活動などを多く取り入れる必要があります。また、「室内で過ごすことが多く、体力不足である」「あきらめる、避ける、逃げるといった忍耐力の不足」といった課題を克服するために、活動内容に少しずつ負荷をかけながら困難克服体験を積み重ねていく必要もあります。さらに、今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となったキャンプ体験や宿泊体験は人間関係作りのために積極的に計画できるように提案していきたいです。

③ 今後の展望

諫早市には、学校へ登校できない不登校・引きこもりの児童・生徒が少なからずいます。少年センターの研修支援を継続的に行いながら、さらに国立青少年教育施設として、子供たちの居場所作りや学校復帰に向けたきっかけ作りを関係機関と連携して行っていきたいです。

6. 子供の貧困対策事業（「生活・自立支援キャンプ」）

第2回 わくわくチャレンジキャンプ

令和2年9月20日（日）～22日（火・祝）

【担当：松元 延行】



（1）事業の背景

我が国の子供の貧困率は年々上昇しており、国際的に見ても大変深刻な状態にあります。国を挙げた対策が急がれる中、平成25年6月に「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が成立し、平成26年8月には「子供の貧困対策に関する大綱」（平成26年8月29日閣議決定）が取りまとめられ、国において総合的な取組が行われることとなりました。

このような国の動向を踏まえ、機構においては、平成26年度から、児童養護施設、母子生活支援施設及びひとり親家庭等の子供を対象に、経済的に困窮した家庭の子供の「生活・自立」を支援し、生活習慣の改善や自己肯定感の向上につながる多様な体験活動の場を提供することとし、本所でも「生活・自立支援キャンプ」を実施してきました。

今年度は、児童養護施設と連携して施設の子供たちを対象に実施する「わくわくチャレンジキャンプ（佐賀）」と、母子寡婦福祉会と連携し、ひとり親家庭の子供を対象に実施する「わくわくチャレンジキャンプ」の2事業を企画しました。

なお、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、児童養護施設と連携した事業は、実施1か月前に中止を決定し、ひとり親家庭の子供を対象とした当キャンプも、年3回実施する予定でしたが、第1回と第3回を中止しました。

（2）事業の趣旨

ひとり親家庭の子供たちが共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」・「家庭学習の習慣」といった基本的な生活習慣や、家庭で生かせる献立作りや調理法・栄養バランス等の「食育」に関する知識・技能を身につけ、できる体験を積み重ねることで、自尊感情を高める一助とする。

（3）目標

- ① 共同宿泊生活体験を通じて、「早寝早起き朝ごはん」・「家庭学習の習慣」といった基本的な生活習慣を身につける。
- ② 家庭で生かせる献立作りや調理法、栄養バランス等の食育を身につける。
- ③ できる体験を積み重ね自尊感情を高める。

（4）対象

島原市・南島原市・雲仙市・諫早市・長崎市・長与町・大村市・東彼杵郡・佐世保市在住のひとり親家庭の小学生・中学生・高校生 40名程度

※ 保護者・母子会役員の参加可

(5) 事業の実施

① 期日

令和2年9月20日(日)～9月22日(火・祝) 2泊3日

② 参加者

男女別・校種別内訳

	男	女	計
小学生	15名	10名	25名
中学生	4名	2名	6名
高校生	2名	1名	3名
大人		2名	2名
計	21名	15名	36名

③ 日程

9月20日(日)	9月21日(月・祝)	9月22日(火・祝)
送迎	6:30 起床	6:30 起床
10:00 開会式	6:20 朝食(野外炊事)	7:00 朝食(バイキング)
10:30 レクリエーション	9:00 沢登り	8:20 清掃・片付け
12:00 昼食(バイキング)	昼食(弁当)	9:00 アイロンがけ
13:00 レクリエーション	15:00 洗濯、勉強	家族への手紙
15:00 夕食(野外炊事)	18:00 夕食(バイキング)	12:00 昼食(バイキング)
20:00 入浴	19:00 入浴	13:00 全体の振り返り
21:00 一日の振り返り	20:00 花火	13:30 閉会式
21:30 就寝	21:00 一日の振り返り	送迎
	21:30 就寝	

④ 活動の様子

【班決め】

今回のキャンプでは、事前に班構成を決めておかず、生活班や活動班を子供たちの話し合いで決定するようにしました。以前から顔なじみのメンバーが多いとはいえ、人間関係がはっきりしないままで子供たちに任せていいものか不安でしたが、高校生・中学生の子供たちがリーダーシップを発揮し、スムーズに班が決定しました。この時間を設けた結果、子供たちのやる気や自主性を引き出すことができ、その後の活動におおいに役立ちました。

【野外炊事(肉野菜炒め・ポパイオムレット)】

活動班が決まり、夕食と翌日の朝食は野外炊事を行いました。子供たちの主体的、独創的な活動が生まれるように、作り方などの説明を簡素化して、子供たちの話し合いで進めながら、失敗を恐れずに考えて調理できるよう支援しました。その結果、どの班も年齢に合わせて役割分担を決め、年長者が年少者にいろいろな技術を教える姿を随所に見ることができました。みんなで作ったご飯はおいしく、「家でも自炊をたくさんやってみたい」と感想を述べていました。

【本の読み聞かせ・振り返り】

子供たちに、「本を読んでもらいたい」「読書活動を生活の一部にさせたい」というスタッフの熱い思いから、情操教育として絵本の読み聞かせの時間を毎回設けています。活動のめりはりをつける意味でも、心を落ち着けて静かに集中して“聴く”時間は有意義でした。その後、個人個人で、キャンプのしおりに一日の振り返りを書くことによって、できたこと、できなかったことをはっきりと意識させ、確認することができました。

【沢登り】

この季節ならではの自然体験として、年少者も考慮し、難易度別の沢登りを実施しました。子供たちは普段体験できない沢登りに全力で取り組みました。班の中で怖がりの子がいると、みんなで支えたり、沈まないように輪になって手をつないだりするなど、男女関係なく支え合う姿を随所で見ることができました。ただ登らせるだけではなく、水遊びをしたり、沢蟹を捕まえたりと、多くの学びや発見ができるように工夫しました。

【洗濯・勉強】

今後のお手伝いの幅が広げられるように、沢登りで濡れた服を洗濯して、部屋に干す活動をこのキャンプの中で行いました。子供たちは、部屋に張られた洗濯ロープに得意げに洗濯物を干していました。

また、家庭学習の習慣化を図るために、洗濯の時間と並行して勉強の時間を設け、連休に入る前に出された学校の宿題を持ち寄り、学習室で勉強を行いました。早く終わった子は、年少者にアドバイスしたりする姿が、この時間にも見られました。

【掃除】

当たり前ではありますが、自分たちが使った部屋の片付けも自分たちで行いました。宿泊体験の乏しい子供たちは、片付けを後回しにしがちです。「時間の貯金をしよう」を合言葉に取組んできたキャンプだけに、掃除も班で協力して素早く行う事ができました。その結果、その後の自由時間をたくさん取ることができ、ゆとりをもって最終日を終わることができました。

【アイロンがけ・家族への手紙】

前日行った洗濯物は、アイロンがけまで行いました。はじめてアイロンを手にした子もおり、きれいに服のしわが伸びる様子を見て感動していました。この場面でも班のリーダーである年長者が、やけどしないよう注意を促しながらアドバイスする姿が見られました。汚れた服を洗う、干す、整える、たたむ、鞆にしまうまでの一連の経験は子供たちの自立の一步であり、今後の家庭生活で役立つと思われます。

洋服のアイロンがけと並行して、子供たちは家族宛に手紙を書きました。日頃、思ってもなかなか口に出して言えない感謝の気持ちを、手紙に記して自然の家のポストに投函しました。おそらく、子供たちが家に帰った翌日に各家庭に届くこの手紙によって、保護者はこのキャンプでのわが子の成長を感じるに違いないと思います。

【電車で帰ろう】

すべての活動に「できる体験の積み重ね」を考えたキャンプの締めくくりとして、

公共交通機関で帰ることも自分たちで行い、方法を学べるようにしました。年少者の子供たちにとっては、切符を買ったり改札口を通ったりする体験は初めてでした。重い荷物を自分で持って、保護者の待つ駅への帰路に就くことができました。

(6) 評価

① アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

満足	やや満足	やや不満	不満
92%	8%	0%	0%

② 参加者の声

- ・男女関係なく仲良くできたと思う。ごはんがとてもおいしかった。ごはんを作ることが楽しくなった。
- ・新しい友達ができてうれしかった。
- ・班で協力する、一つ一つを集中して全力で取り組む、周りをよく見て考えて行動する、挨拶や返事をしっかりする、あきらめずに最後までやり遂げる、これらのことをみんなでがんばりました（参加保護者から）。

(7) 成果と課題

① 成果

このキャンプでは、ひとり親家庭の子供たちを対象としたキャンプとして、共同宿泊生活体験を通じて、「早寝早起き朝ごはん」「家庭学習の習慣」といった基本的な生活習慣を身に付けようとする意欲を持たせる、家庭でできるようになってほしいこと（炊事、洗濯、後片付け）を体験させる、普段できない自然体験活動を多く取り入れる、大人から子供へ、年長者から年少者へ支援活動が広げることの4点を重視して実施しました。

子供たちは自然の中で冒険を行うという目的意識を持って参加しており、年長者の子供たちは、年少者の子供たちの面倒をよく見ていました。スタッフが、読み聞かせや振り返り、できたことを認め褒める言葉かけを行うことによって、子供の居場所作りができたと思っています。

また、キャンプでの活動を通して、早寝早起き朝ごはんの定着や、家庭学習の習慣付け、掃除・洗濯・アイロンがけといった基本的な生活スキルの向上を図ることができました。

② 課題

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、年3回計画していた当キャンプは、9月の1回しか実施することができませんでした。このキャンプも、最後まで開催が危ぶまれ、保護者や母子寡婦会からも心配の声が寄せられましたが、感染防止対策を丁寧に説明し、三密を避けた方策を徹底することで、実施することができました。

参加者が安心してキャンプに参加できる環境を整えることが重要だということを改めて感じたキャンプでした。

③ 今後の展望

当キャンプは、生活・自立支援キャンプとして、参加者負担となる食費や保険代等の全ての事業参加費を自然の家が負担し実施するキャンプとして実施してきました。

複数年継続してみても、参加者は、当事業のみを継続して参加する傾向にあることが分かりました。その一因として、ひとり親家庭の経済状況が考えられます。

今後は、ひとり親家庭の子供であっても、自然の家が実施する他の教育事業へ参加できるような仕組みづくりを考えていきたいと思います。

また、課題を抱える青少年の自立を支援する取組として、社会一体となって、支援の輪を広げられるように、母子寡婦会を含め、各関係機関との連携を深めていきたいと考えています。

7. 出前事業

特別研修支援事業

「出張！諫早自然の家!!」

～各学校等で自然の家のプログラムを体験しよう！～

令和2年7月1日（水）～12月27日（日）

【担当：松元 延行・園部 翔】



(1) 事業の背景

目まぐるしく変わりゆく現代社会を生きる日本の青少年の今日的課題として「他者への思いやりの心」「自制心や規範意識」「人間関係を形成する力」の低下などの傾向が指摘されています。^{※1}

当所では、多様な体験活動を通して、青少年の健全育成、青少年教育の振興を行なっています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、令和2年2月から令和2年6月までに延べ133団体（26,697人）の利用中止及び日程変更となりました。

その主な理由は、「移動や宿泊による3密（密閉・密集・密接）対策の確保が難しい」とのことでした。連絡を受けた際に、「新入生の集団宿泊活動や1学期の宿泊学習は、とても重要であるため実施したかった」「予算面を含む移動の課題が解決できれば実施できた」という話もありました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、体験活動の機会減少に拍車がかかり、学校等団体がその対応に苦しんでいる中、当所は体験活動を提供することが大切であると考え、当所職員が団体の元に出向く「出張！諫早自然の家!!」を新たに企画し、実施しました。

※1 「子どもの徳育の充実に向けた在り方について（報告）」（平成21年9月11日 子どもの徳育に関する懇談会報告）

(2) 事業の趣旨

新型コロナウイルス感染症の全国的流行により、体験活動の機会が喪失した青少年に対して、体験活動の機会を提供するため、職員が赴き自然の家の活動プログラムを実施する。

(3) 対象

自然の家の利用をキャンセルした各学校・団体等

(4) 事業の実施

1) 活動内容

以下の出前講座を各場所で開催いたします。

- ① イニシアティブゲーム【120～180分程度】“3密”対策をとった活動
例：パイプライン、ズームリズム、ラインナップなど
- ② 遊びリンピック【120分程度】競技性のある体験活動
例：丸太積み、豆運び、輪投げ、ペットボトルダーツなど
- ③ クラフト活動【60～120分程度】自然の家で実施するクラフト活動
例：丸太のコースター、ペンダント、プラホビー

2) 期日 令和2年7月1日から12月27日までの団体希望日
※実施日および詳細は、団体と自然の家にて調整

3) 参加費 原則無料 ※ただし、クラフトは材料費が必要
【1人あたり材料費】

丸太のコースター (50円)、ペンダント (30円)、プラホビー (130円)

4) 参加団体数 11団体

【内訳】小・中学校6、放課後児童クラブ(学童)2、
教育委員会生涯学習課(子ども会)2、適応指導教室1

5) 参加者数 489名

【内訳】

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
園児	0	0	0	0	0	0	0
小学生	0	80	119	20	16	109	344
中学・高校生	0	0	28	9	1	0	38
社会人	0	10	57	16	11	13	107
合計	0	90	204	45	28	122	489

6) 活動の様子



【運営面での留意事項】

実施期間に夏期を含むため、3密(密閉・密集・密接)対策と併せて熱中症対策を行いながら実施しました。

3密対策では、まず換気の徹底をし、1m以内で対面しながら話合う活動を避けました。また、友達の体に触れなければならない活動はできる限り避け、実施する際には、休憩前に行う最後の活動とし、活動後の手指消毒を徹底しました。

熱中症対策では、気候や子供たちの体力を引率責任者と確認し、動きの多い活動と少ない活動との構成バランスを工夫しました。また、友達と向かい合わない活動の際には、マスクを着用しなくてもよいこととしました。

【イニシアティブゲーム】

集団で活動する際に大切なことを考えられるように、班のみんなで協力しなければ達成することが難しい活動を設定しました。参加者からは「困った時に声をかけてあげること」「みんなの目標を決めて、チャレンジすること」などが大切という声が聞かれました。

【遊びリンピック】

個人の最高記録を競い合う中で、「どうやったらうまくいくのか」「友達は何ぞい記録が出せるのか」を考えて取り組める活動を設定しました。

【クラフト活動】

形として思い出に残るクラフト活動では、周辺の自然物を自分たちで集めて、製作しました。

(5) 参加者の声

- ・新型コロナウイルス感染症拡大のため子供たちの活動が制限されていた中で、子供たちがのびのびと集団で活動ができてよかった。
- ・親子で活動ができてよかった。しばらくステイホームが続いていたので、さらに効果的だった。
- ・のきなみ行事が削減された中で、ちょっとした思い出作りができた。
- ・宿泊学習が中止になり、残念だったが、こういった機会をつくっていただけて感謝している。

(6) 成果と課題

① 成果

11 団体から依頼を受けたことから、利用者の要望に応えることができた事業だった。

当日は子供たちがはつらつと活動する姿に、学校の先生方や団体の代表者の方から「体験活動は、普段の子供たちの表情や態度などと異なり、雰囲気明るい」「普段発言回数の少ない子供が積極的に話していることに驚き、一人一人の子供たちの見方が変わる」という感想がありました。

コロナ禍において、子供たちのみならず学校の先生や団体の代表者の方にとっても、体験活動の有用性を感じてもらえたものと思います。

② 課題

学校の先生や団体の代表者の方から「いつもの宿泊学習ならこれから子供たち自身が変化し始めるのにもったいない」ということが聞かれました。

およそ2時間の活動で、体験を通して、子供たちが主体的に気づきを深めていくのは、宿泊学習と比べると難しかったです。

今後は当日のプログラム企画時に、実施日前後の活動も含めた子供たちの成長につながるパッケージングの調整を行なっていくことが重要だと分かりました。

③ 今後の展望

本事業を通して、子供たち、指導者ともに体験活動への期待が大きいこと、宿泊学習等の宿泊を伴う自然体験活動によって、子供たちが主体的に変化していくことの重要性を改めて感じる事ができました。

本事業は今年度限りを想定して実施しました。今後、新型コロナウイルス感染症がどのような影響を及ぼすか予測できない現状ではありますが、学校等の利用団体が当所での宿泊体験活動を安心して実施できるよう、より一層の対策を図っていきたいと思います。

8. 研修支援

キャンプの日

令和2年4月～令和3年3月 毎月第3日曜日

【担当：東島 憲之】



(1) 事業の背景

本所では、「キャンプをもっと身近なものにしたい」、「キャンプで家族団らんのひと時を過ごしてほしい」と考え、令和元年10月から毎月第3日曜日を当所の「キャンプの日」として制定し、家族の体験活動を推進しています。毎月第3日曜日としているのは、長崎県と佐賀県がこの日を「家庭の日」としていることにちなんでいます。

(2) 事業の趣旨

毎月第3日曜日を当所の「キャンプの日」として制定し、家族の体験活動を推進するとともに、キャンプを通して家族団らんの時間を提供する機会とする。

(3) 対象

幼児や小・中・高・大学生のいる家族

1) デイキャンプ 定員 無し

※事前申込みを不要とし、途中参加、途中帰宅を可能としました。

※参加に必要な情報（携行品等）をホームページに掲載しました。

2) テント泊体験 定員 各回4組程度

※WEBからの申込みとし、多数の場合は初参加優先としました。

(4) 事業の実施

① 期日

令和2年4月～令和3年3月 毎月第3日曜日

※テント泊体験は、前日から実施（7、8月はデイキャンプのみ）

② 参加者

外出自粛の期間後に外遊びの需要が高まり、9月以降の参加者が増加しました。

開催月	デイキャンプ		テント泊体験	
	家族数	合計人数	家族数	合計人数
4月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止			
5月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止			
6月	11	44	4	15
7月	雨天のため中止			

開催月	デイキャンプ		テント泊体験	
	家族数	合計人数	家族数	合計人数
8月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止			
9月	29	106	4	17
10月	32	102	3	12
11月	48	161	4	16
12月	29	91	1	4
1月	新型コロナウイルス感染症拡大に伴い中止			
2月	20	71	申込み家族無し	
3月	雨天のため中止		4	16
合計	169	575	20	80

③ プログラム

日帰り（デイキャンプ・特別プログラム）と宿泊（テント泊体験）の2つを実施しました。

ア. デイキャンプ

10時から15時の間に自由に体験できるプログラムとして「たき火・ハンモック・スラックライン等」を実施しました。

イ. 特別プログラム

季節に合わせて事前に決めていた活動（沢歩き・散策・リースづくり）について、デイキャンプ参加者から希望する家族を募り、スタッフが引率しながら約1時間程度の特別プログラムを実施しました。

ウ. テント泊体験

デイキャンプ前日から野外調理やテント泊を楽しめる機会としました。初心者の方でも参加しやすいように、スタッフによる活動時のサポートを手厚くしました。

土曜日		日曜日	
14:00	受付	7:00	朝食づくり
14:30	テント設営	9:00	片付け
16:00	夕食づくり	10:00	解散
20:00	たき火で団らん		→デイキャンプにも参加可

④ 活動の様子



【デイキャンプ】

新型コロナウイルス感染症対策を行った上で、他の家族とは密にならないように配慮しながら実施しました。

リピーターも増え、用意されたプログラムだけでなく、テントやイスを持参してのんびり過ごしたり、マシュマロを焼いて食べたり、アスレチックで遊んだり、自由に過ごす様子が多くみられました。



【特別プログラム】

6月、9月の沢登りでは、年齢や着替え等の持参状況により、沢を歩いて登るコースと沢の一部の範囲で遊ぶコースに分かれて実施しました。

出発前までのたき火時にスタッフが参加者と関係性を築いたり、安全指導後に参加者全員でかけ声をかけて動機づけを行ったことで、初めて参加して経験が少ない家族も安心して活動できるよう配慮しました。



【テント泊体験】

泊まりたいテントを参加家族に選んでもらい、他の家族と協力してテント設営をしました。

夕食作りは、準備物や貸出道具、メニューを事前に情報提供することで、参加者の不安が少なくなるようにしました。また、初めての家族でも安全に薪割りができるよう道具を新たに購入しました。

(5) 評価

① アンケート結果（キャンプ全体に対する満足度）

ア. デイキャンプ

満足	やや満足	やや不満	不満
96%	4%	0%	0%

イ. テント泊体験

満足	やや満足	やや不満	不満
100%	0%	0%	0%

② 参加者の声

ア. デイキャンプ

- ・1家族でのキャンプはハードルが高いため、いろいろな体験ができるこのような実施は嬉しいです。
- ・キャンプに慣れていないので、スタッフがいつも居て助かりました。

イ. テント泊体験

- ・本格的なキャンプを初めて体験でき、子供たちにとって良い経験になりました。
- ・幼児が遊べる部屋や広場がテントの近くにあったり、困った時に声をかけやすい距離にスタッフが居て安心でした。

(6) 成果と課題

① 成果

リピーターや知人を誘っての参加、近隣以外からの参加が増え、この取組がさらに広がっています。

2回目以降の参加時には、他の参加者を参考にして、たき火の楽しみ方を工夫したり、持参するキャンプ用品が回を追うごとに増えたりと、家族それぞれの楽しみ方でキャンプが身近になっている様子が見られます。

テント泊体験では、大人がすべて準備するのではなく、子供に役割を与える家族や、「今は子供が幼いので自然の家でのキャンプが安心ですが、もう少し成長したら海のキャンプ場とか行ってみたいです。」と長期的な見通しを持たれている家族がいることが分かりました。

② 課題

デイキャンプは、初めての家族・リピーターや道具を少し持っている家族等、異なるキャンプ経験の参加が毎月100名以上となっています。そのため、多人数の参加者に安全・安心な活動を提供するために、活動エリアの整備、注意事項等の伝達等の運営面のノウハウに少人数の場合と異なる視点が求められます。また、スタッフ研修や多人数への対応の経験を積み重ねることが必要だと感じています。

③ 今後の展望

今後は、民間のキャンプ場ではできない、自然の家ならではの役割として、家族が自力で火をつけたり、テントを設営できたりするプログラムを提供したり、インターネット等で紹介されているキャンプの楽しみ方を参加者と一緒にやってみるプログラムを提供していくことで、キャンプでの家族団らんの時間を通して体験活動の楽しさを体感してもらい、家族体験活動をより推進していけるよう、運営や内容を工夫していきたいと考えています。

9. 令和2年度事業実績一覧

No	事業種類	事業名	事業目的	期 日	対 象	募集人数(人)	備考
1	② 地域力向上	アドベンチャー教育の手法を基盤とした「中1ギャップ」対応プログラム開発事業 『スタートアップキャンプ』	青少年を取り巻く今日の課題である「中1ギャップ」に対応するため、アドベンチャー教育の手法を基盤としたモデルプログラムを開発する。	11/21(土)～11/23(月・祝)	小学6年生	50	後援：長崎県教育委員会
2		生活・自立支援キャンプⅠ (ひとり親家庭の子ども支援事業)	ひとり親家庭の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊心を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。	①6/4(月・祝)～6/6(水・祝) ※中止 ②9/20(日)～9/22(火・祝) ③1/9(土)～1/11(月・祝) ※中止	ひとり親家庭の児童	各40	協力：県内の母子寡婦会
3		生活・自立支援キャンプⅡ (児童養護施設の子どもの支援事業)	児童養護施設の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊心を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。	8/14(火)～8/13(木) ※連携先から中止連絡	児童養護施設の児童生徒	30	対象：済昭園
4	① 普及啓発	タラッキーキャンプ(夏編)	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しみ心豊かさを育む。	7/11(土)～7/14(日) ※5月～7月に変更後、 豪雨のため中止	小学3～4年生	各50	
5		タラッキーキャンプ(秋編)	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、自然に親しみ心豊かさを育む。	9/12(土)～9/13(日)	小学1～2年生	60	
6		アドベンチャーキャンプ	長期の自然体験活動を通して、たくましく生きる力を育む。	8/17(月)～8/19(水) ※中止	小学4～中学3年生	30	
7		レベルアップソフトボール教室	ソフトボールの実業団選手による講習と参加チームによる試合を通して、技術の向上と参加者間の交流を図る。	12/12(土)～12/13(日) ※中止	中学生のソフトボールチーム	200	
8		バスケットボールフェスティバル	バスケットボールコーチによる講習と参加チームによる試合を通して、技術の向上と参加者間の交流を図る。	①男子11/28(土)～11/29(日) ②女子2/27(土)～2/28(日) ※中止	中学生のバスケットボールチーム	各240	
9		諫早自然の家杯ドッジボール大会	試合や交流会及び宿泊を共にすることで、技術の向上と県内外のチームや個人の交流を図る。	3/6(土)～3/7(日) ※中止	小学生のドッジボールチーム	240	協力：長崎県ドッジボール協会
10		みんなで山をささごう会	美しい自然の残る多良山系の登山を通して、自然に親しみるとともに、参加者同士の親睦を深め、生きがいづくりと健康づくりの一助とする。	①6/24(水)※日帰り変更 ②9/15(火)～9/16(水) ③12/22(火)～12/23(水) ④3/2(火)～3/3(水) ※中止	登山ができる方	各15	
11		「地域の教育的課題に対応するプログラム」推進事業 『シャワーライミングキャンプ』	自然体験活動や共同宿泊体験を通じて、主体性・協調性・道徳性・規範意識を育む。 また、インシアティブゲームを踏まえた沢登り活動における教育効果について検証する。	9/5(土)～9/6(日) ※台風接近のため9/5日帰りを実施	小学5年生	30	
12		イングリッシュキャンプ	自然の中で、英語を聞いたり話したりする活動を通して、外国人との交流や英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させる。	10/17(土) ※日帰りに変更	小学3～4年生	30	諫早市教育委員会委託事業
13		④ 指導者	グループをチームに育てるプログラム研修会 (体験編)	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して、体験教育・アドベンチャー教育の必要性や有効性を実感させる。	長崎編 12/26(土) 佐賀編 12/19(土) 福岡編 1/6(土) ※中止	教員、施設職員、大学生等	各30
14	NEALリーダー養成事業		専門的な知識と技術をもって、自然体験活動の普及や振興に貢献する自然体験活動指導者を養成する。	11/7(土)～11/8(日) 2/13(土)、2/14(日)、 3/7(日)オンライン開催	青少年教育・学校教育関係者、大学生	20	
15	自然体験活動ボランティア養成研修		青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める。	10/10(土)～10/11(日) 2/13(土)オンライン開催	大学生、社会人	30	NEALリーダー・カリキュラムの読み替えあり
16	ボランティア自主企画事業		ボランティア自身が主体的に企画・実施する自主企画事業を通して、法人ボランティアの活躍の場や機会の充実を図り、ボランティアを育成する。	未定 ※中止	未定	未定	
17	教員免許状更新講習		新学習指導要領で示された「体験活動の充実」を踏まえ、体験活動に関する理解をより一層深めることで、教育内容の充実を目指す。	②8/29(土) ③9/12(土) ④10/3(土) ①11/13(火)※日程変更	教員(受講対象者)	各30	共催：長崎大学

▼地域ぐるみで体験の風をおこそう運動推進事業…うち、当所が主導する事業を抜粋

18	子ども体験フェスティバル (長崎編・佐賀編)	長崎・佐賀県内の青少年教育施設や青少年団体等と協力連携し、子供たちに自然体験等の楽しさを体感させるとともに、保護者等に体験活動の重要性を普及啓発する。	【長崎編】 10/24(土)～10/26(日) ※中止 【佐賀編】 10/11(日)波戸岬 10/18(日)黒髪 10/25(日)北山 ※3施設ラーフェスティバルとして実施	幼児や小・中・高・大学生のいる家族、学童クラブ等	2,000	共催：諫早市こどもの城、コスモス花宇宙館、佐賀県黒髪少年自然の家、佐賀県波戸岬少年自然の家、佐賀県北山少年自然の家
19	セレクト親子キャンプ	親子でのキャンプ体験を通して、体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。	10/24(土)～10/25(日)	幼児や小・中・高・大学生のいる家族	30家族	
20	自然の家通学キャンプ	自然の家で共同生活をしながら学校に通学する活動を通して、「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣や家庭学習の習慣を身につける契機とするとともに、メディア依存対策の一助とする。	①11/12(木)～11/14(土) ②11/26(木)～11/28(土) ③12/3(木)～12/5(土) ④12/10(木)～12/12(土) ※対象校減少のため集約(4回→3回)	小学3～4年生 小学4年生	各50 各30	
21	木育キャンプ	次代を担う子供たちに対し、森林に親しみながら森林・林業を理解し、体験する教育を推進することで、自然に親しみ心豊かさを育むとともに、持続可能な社会づくりの担い手育成の一助とする。	10/31(土)～11/1(日) ※回数縮小(2回→1回)	小学4～中学1年生	各40 30	共催：長崎県緑化推進協会、西彼青年の家、日吉自然の家、佐賀県黒髪少年自然の家
22	諫早市通学合宿	当所職員が、諫早市内の通学合宿に指導者として参画することで、地域における体験活動の推進を図る。	9～10月 ※中止	小学生	各20	共催：御館山小学校区通学合宿実行委員会、長田小青年会
23	子どもゆめ基金助成金募集説明会	子どもゆめ基金助成金募集説明会を開催し(長崎県・佐賀県を予定)、広く当基金の存在を周知することで、体験活動を推進する機運の向上を図る。	①9/5(土) ②9/6(日) ※台風接近のため中止	青少年団体関係者等	各20	協力：長崎県教育委員会、佐賀県教育委員会(予定)

▼研修支援関係

24	キャンプの日	毎月第3日曜日を当所の「キャンプの日」として制定し、家族の体験活動を推進するとともに、キャンプを通して家族団らんの時間を過ごしてもらう。	毎月第3日曜日 ※前日土曜日から前泊あり ※4、5月は中止 ※6月は各土日に デイキャンプを実施	幼児や小・中・高・大学生のいる家族	土は4家族 日は無償なし	
25	長崎大学教育学部 野外体験リーダー研修	小・中学校の宿泊体験学習において補助指導を行う学生が、自然体験活動プログラムの体験を通して、指導者としての心構えや必要な知識・技術を習得する。	①4/26(土)～4/28(日) ②5/24(土)～5/26(日) ※WEB実施	長崎大学教育学部2年生	①109 ②130	共催：日吉自然の家
26	諫早市少年センター(適応指導教室)	体験活動を通して、協調性・自主性・耐性・感謝の気持ちを育てる。	①6/2(火)・6/3(水)※日曜日2日 ②9/11(金) ③10/1(木)～10/2(金)※日程短縮 ④11/17(火) ⑤12/8(火) ⑥2/2(火)	適応指導教室に通う児童及び生徒	各10 程度	
27	大牟田市昭和教室(適応指導教室)	体験活動を通して、協調性・自主性・耐性・感謝の気持ちを育てる。	9/28(月)～9/30(水) ※教育委員会判断により中止	適応指導教室に通う児童及び生徒	10	
28	新型コロナウイルス感染症防止対策を踏まえた施設利用者説明会	利用予定団体の引率責任者に対して、当施設の新型コロナウイルス感染症防止対策を説明するとともに、利用団体が留意していただく内容を周知する。	①7/15(水) ②7/16(木) ③7/29(金) ④8/5(水) ⑤8/6(木) ⑥8/7(金)	利用予定の学校・団体等の引率責任者、行政・学校関係者等	各15	

Ⅱ 事業・管理運営の記録

1. 令和2年度利用実績

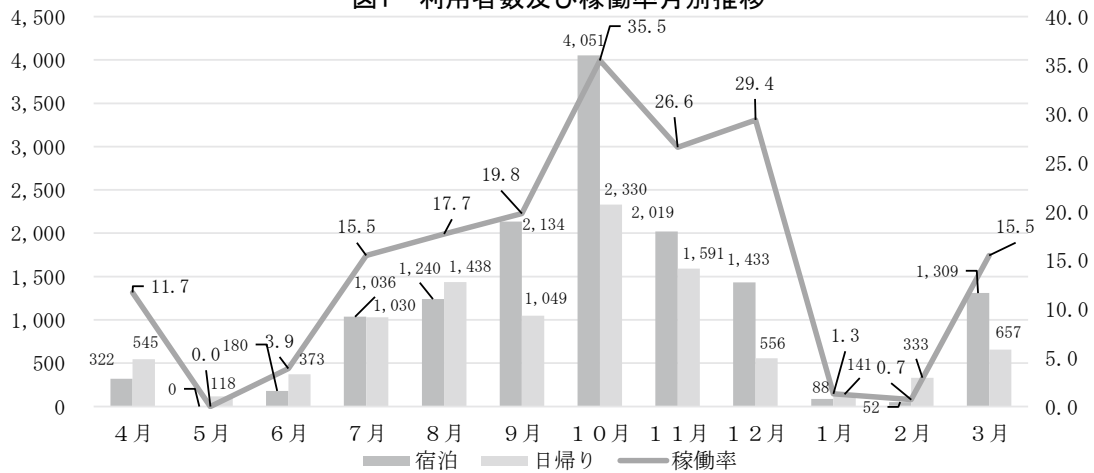
※新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止による受入れ停止期間
令和2年4月17日～5月22日（宿泊・日帰り）、令和2年5月23日～5月30日（宿泊）

(1) 利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援	宿泊	322	0	180	1,036	1,240	1,942	3,737	1,523	956	88	52	1,309	12,385
	日帰	134	118	356	993	1,333	780	2,024	1,388	400	141	211	648	8,526
	計	456	118	536	2,029	2,573	2,722	5,761	2,911	1,356	229	263	1,957	20,911
教育事業	宿泊	0	0	0	0	0	192	314	496	477	0	0	0	1,479
	日帰	411	0	17	37	105	269	306	203	156	0	122	9	1,635
	計	411	0	17	37	105	461	620	699	633	0	122	9	3,114
総合計	宿泊	322	0	180	1,036	1,240	2,134	4,051	2,019	1,433	88	52	1,309	13,864
	日帰	545	118	373	1,030	1,438	1,049	2,330	1,591	556	141	333	657	10,161
	計	867	118	553	2,066	2,678	3,183	6,381	3,610	1,989	229	385	1,966	24,025
稼働率(%)		11.7	0.0	3.9	15.5	17.7	19.8	35.5	26.6	29.4	1.3	0.7	15.5	15.6

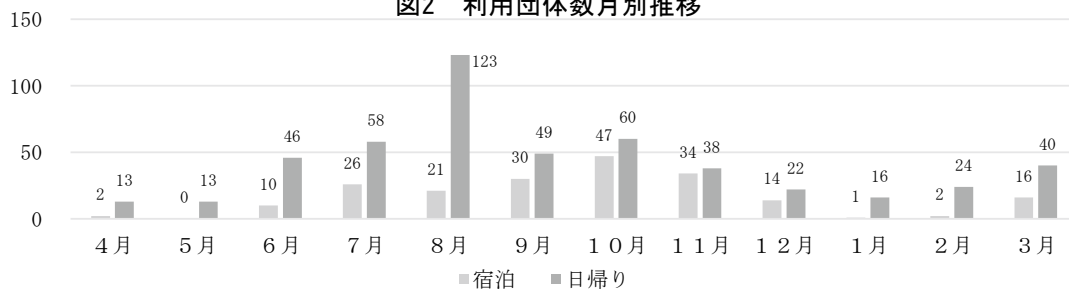
図1 利用者数及び稼働率月別推移



② 利用団体数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
研修支援	宿泊	2	0	10	26	21	27	45	31	11	1	2	16	192
	日帰	11	13	45	55	119	41	56	35	18	16	20	39	468
	計	13	13	55	81	140	68	101	66	29	17	22	55	660
教育事業	宿泊	0	0	0	0	0	3	2	3	3	0	0	0	11
	日帰	2	0	1	3	4	8	4	3	4	0	4	1	34
	計	2	0	1	3	4	11	6	6	7	0	4	1	45
総合計	宿泊	2	0	10	26	21	30	47	34	14	1	2	16	203
	日帰	13	13	46	58	123	49	60	38	22	16	24	40	502
	計	15	13	56	84	144	79	107	72	36	17	26	56	705

図2 利用団体数月別推移

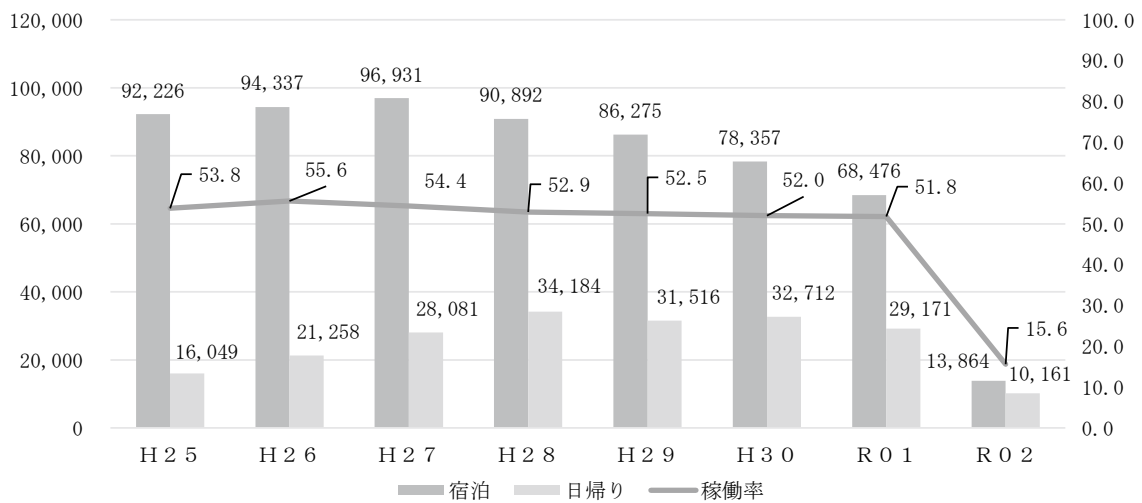


(2) 平成25年度から令和2年度までの利用者数・利用団体数・稼働率

① 利用者数及び稼働率

		H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 0 1	R 0 2
研修支援	宿泊	89,276	90,810	92,643	84,729	79,545	71,904	63,303	12,385
	日帰	12,466	12,526	14,379	15,380	14,960	13,522	13,020	8,526
	計	101,742	103,336	107,022	100,109	94,505	85,426	76,323	20,911
教育事業	宿泊	2,950	3,527	4,288	6,163	6,730	6,453	5,173	1,479
	日帰	3,583	8,732	13,702	18,804	16,556	19,190	16,151	1,635
	計	6,533	12,259	17,990	24,967	23,286	25,643	21,324	3,114
総合計	宿泊	92,226	94,337	96,931	90,892	86,275	78,357	68,476	13,864
	日帰	16,049	21,258	28,081	34,184	31,516	32,712	29,171	10,161
	計	108,275	115,595	125,012	125,076	117,791	111,069	97,647	24,025
稼働率(%)		53.8	55.6	54.4	52.9	52.5	52.0	51.8	15.6

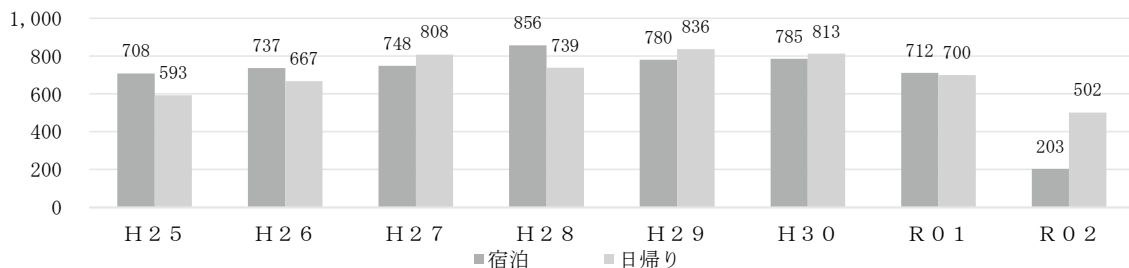
図3 利用者数及び稼働率経年比較



② 利用団体数

		H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0	R 0 1	R 0 2
研修支援	宿泊	675	691	702	762	704	708	656	192
	日帰	574	634	746	674	774	732	633	468
	計	1,249	1,325	1,448	1,436	1,478	1,440	1,289	660
教育事業	宿泊	33	46	46	94	76	77	56	11
	日帰	19	33	62	65	62	81	67	34
	計	52	79	108	159	138	158	123	45
総合計	宿泊	708	737	748	856	780	785	712	203
	日帰	593	667	808	739	836	813	700	502
	計	1,301	1,404	1,556	1,595	1,616	1,598	1,412	705

図4 利用団体数経年比較



(3) 団体種別利用状況

団体種別	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
幼稚園・保育園・こども園	2,010	8.4	63	8.9
小学校	7,832	32.6	146	20.7
中学校	427	1.8	11	1.6
高等学校	30	0.1	7	1.0
特別支援学校	111	0.5	7	1.0
大学・短大	0	0.0	0	0.0
その他の学校	3	0.0	1	0.1
青少年活動関係団体等	7,717	32.1	174	24.7
教育事業等	3,114	13.0	45	6.4
官公庁・企業	544	2.3	20	2.8
家族	674	2.8	134	19.0
その他	1,563	6.5	97	13.8
合 計	24,025	100	705	100

- ・「その他の学校」とは、専修学校・専門学校、職業訓練校等の団体を区分しています。
- ・「その他」とは、上記以外の「教育関係施設」、「グループ・サークル」等の団体を区分しています。

図5 団体種別利用者数の割合

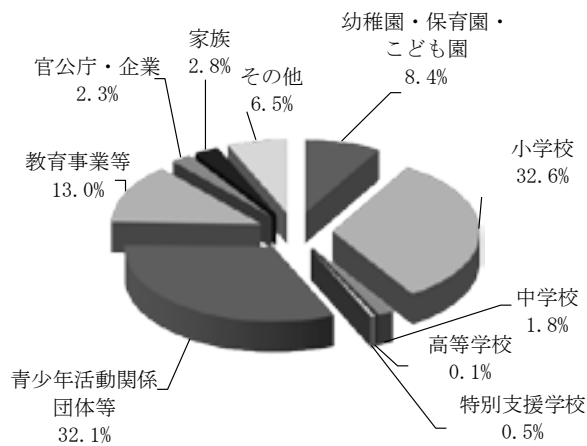
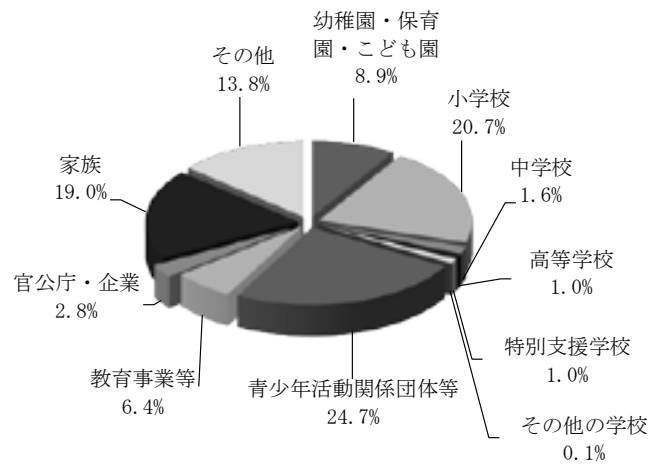


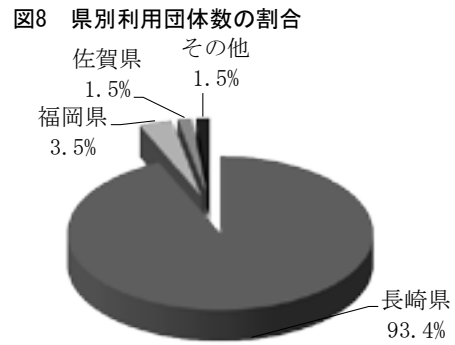
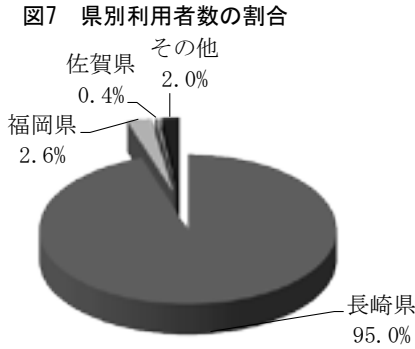
図6 団体種別利用団体数の割合



(4) 県別利用状況

都道府県	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
長崎県	19,263	95.0	426	93.4
福岡県	536	2.6	16	3.5
佐賀県	90	0.4	7	1.5
その他	397	2.0	7	1.5
合計	20,286	100	456	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。



(5) 県ごとの団体種別利用実績

		幼・保 こども園	小学校	中学校	高等学校	特別支援 学校	大学 短大	その他の 学校	青少年 活動団体	官公庁 企業	家族	その他	合計
長崎県	利用団体数(団体)	35	60	4	0	3	0	0	121	16	125	62	426
	利用者数(人)	1,889	7,501	405	0	102	0	0	7,067	509	628	1,162	19,263
福岡県	利用団体数(団体)	1	0	0	0	0	0	0	6	2	3	4	16
	利用者数(人)	36	0	0	0	0	0	0	385	27	22	66	536
佐賀県	利用団体数(団体)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4	7
	利用者数(人)	0	71	0	0	0	0	0	0	0	8	11	90
その他	利用団体数(団体)	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	2	7
	利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	0	124	0	12	261	397
合計	利用団体数(団体)	36	61	4	0	3	0	0	131	18	131	72	456
	利用者数(人)	1,925	7,572	405	0	102	0	0	7,576	536	670	1,500	20,286

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活動・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(6) 長崎県内市町ごとの利用状況

市町名	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
諫早市	8,797	45.7	208	48.8
長崎市	3,441	17.9	97	22.8
大村市	3,643	18.9	55	12.9
雲仙市	164	0.9	8	1.9
島原市	619	3.2	11	2.6
南島原市	275	1.4	5	1.2
佐世保市	228	1.1	10	2.3
時津町	754	3.9	9	2.1
長与町	822	4.3	11	2.6
その他	520	2.7	12	2.8
合計	19,263	100	426	100

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

図9 長崎県内市町ごとの利用者数の割合

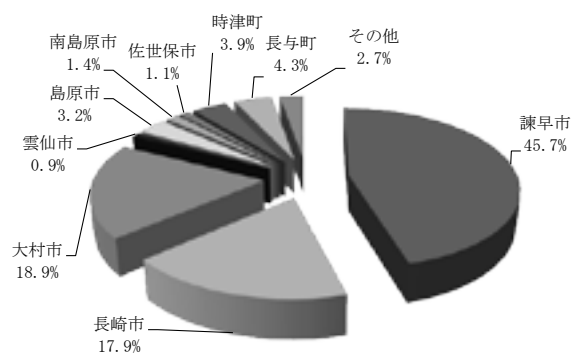
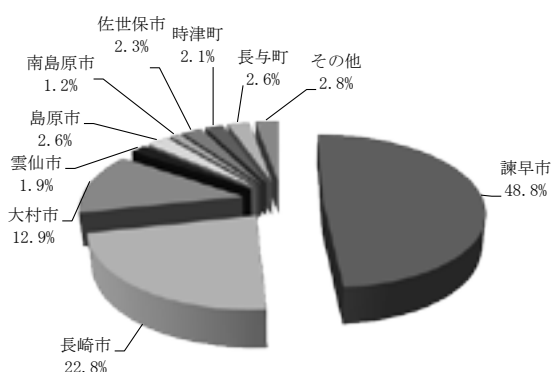


図10 長崎県内市町ごとの利用団体数の割合



(7) 長崎県内市町ごとの団体種別利用実績

市名	団体種別	幼・保	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	その他の	青少年	官公庁	家族	その他	合計
		子ども園				学校	短大	の学校	活動団体	企業			
諫早市	利用団体数(団体)	11	27	4	0	0	0	0	57	2	61	46	208
	利用者数(人)	618	2,888	405	0	0	0	0	3,785	79	279	743	8,797
長崎市	利用団体数(団体)	15	4	0	0	0	0	0	38	3	28	9	97
	利用者数(人)	689	434	0	0	0	0	0	1,935	124	119	140	3,441
大村市	利用団体数(団体)	2	11	0	0	3	0	0	7	10	19	3	55
	利用者数(人)	127	2,171	0	0	102	0	0	632	305	132	174	3,643
雲仙市	利用団体数(団体)	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4	1	8
	利用者数(人)	85	36	0	0	0	0	0	0	0	20	23	164
島原市	利用団体数(団体)	3	4	0	0	0	0	0	1	0	3	0	11
	利用者数(人)	295	260	0	0	0	0	0	44	0	20	0	619
南島原市	利用団体数(団体)	1	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5
	利用者数(人)	42	127	0	0	0	0	0	106	0	0	0	275
佐世保市	利用団体数(団体)	1	0	0	0	0	0	0	3	1	4	1	10
	利用者数(人)	33	0	0	0	0	0	0	163	1	26	5	228
時津町	利用団体数(団体)	0	4	0	0	0	0	0	1	0	2	2	9
	利用者数(人)	0	628	0	0	0	0	0	41	0	8	77	754
長与町	利用団体数(団体)	0	5	0	0	0	0	0	1	0	5	0	11
	利用者数(人)	0	763	0	0	0	0	0	35	0	24	0	822
その他	利用団体数(団体)	0	2	0	0	0	0	0	10	0	0	0	12
	利用者数(人)	0	194	0	0	0	0	0	326	0	0	0	520
合計	利用団体数(団体)	35	60	4	0	3	0	0	120	16	126	62	426
	利用者数(人)	1,889	7,501	405	0	102	0	0	7,067	509	628	1,162	19,263

- ・当所主催の教育事業を除いています。
- ・「学校」が、授業外(勉強合宿・部活動・クラスレクリエーション)で利用した場合は、「青少年活動団体」に区分しています。
- ・各団体が「下見・事前打合せ」で利用した場合を除いています。

(8) 宿泊日数別利用状況

宿泊日数	利用者数		利用団体数	
	数(人)	割合(%)	数(団体)	割合(%)
日帰り	8,047	60.8	468	70.9
1泊2日	4,386	33.1	160	24.2
2泊3日	353	2.7	19	2.9
3泊4日	254	1.9	8	1.2
4泊5日	167	1.3	1	0.2
5泊以上	77	0.2	4	0.6
合計	13,284	100	660	100

図11 宿泊日数別利用者数の割合

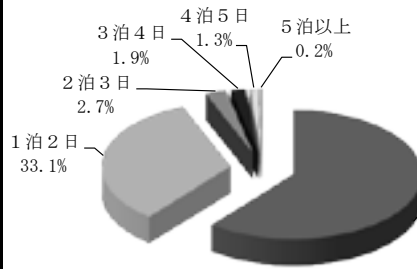
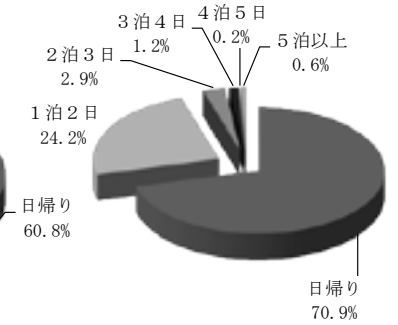


図12 宿泊日数別団体数の割合



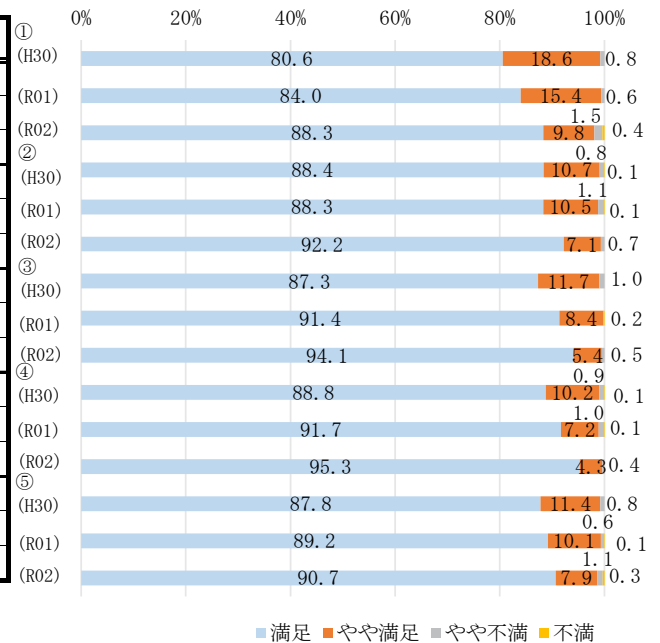
・利用者数は、実利用者数を用いて算出しています。
 ・当所主催の教育事業を除いています。

(9) 利用者アンケート

		満足	やや満足	やや不満	不満
①事前の情報提供に関する満足度	H30	80.6	18.6	0.8	0.0
	R01	84.0	15.4	0.6	0.0
	R02	88.3	9.8	1.5	0.4
②職員等の教育的支援に関する満足度	H30	88.4	10.7	0.8	0.1
	R01	88.3	10.5	1.1	0.1
	R02	92.2	7.1	0.7	0.0
③活動プログラムに関する満足度	H30	87.3	11.7	1.0	0.0
	R01	91.4	8.4	0.0	0.2
	R02	94.1	5.4	0.5	0.0
④職員の対応に関する満足度	H30	88.8	10.2	0.9	0.1
	R01	91.7	7.2	1.0	0.1
	R02	95.3	4.3	0.4	0.0
⑤施設を利用した総合的な満足度	H30	87.8	11.4	0.8	0.0
	R01	89.2	10.1	0.6	0.1
	R02	90.7	7.9	1.1	0.3

(%)

図13 利用者アンケート経年比較

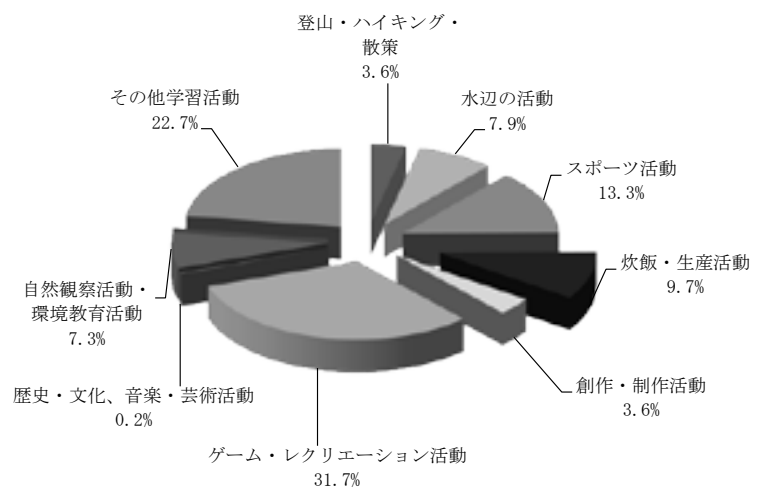


■満足 ■やや満足 ■やや不満 ■不満

(10) 活動プログラム別利用状況

活動プログラム	利用件数	割合(%)
登山・ハイキング・散策	39	3.6
水辺の活動	86	7.9
スポーツ活動	144	13.3
炊飯・生産活動	105	9.7
創作・制作活動	39	3.6
ゲーム・レクリエーション活動	342	31.7
歴史・文化、音楽・芸術活動	2	0.2
自然観察活動・環境教育活動	79	7.3
奉仕活動	0	0.0
その他学習活動	246	22.7
合計	1,082	100

図14 活動プログラム別利用割合



(11) 開所からの利用状況

和暦	西暦	宿 泊		日 帰		総 計		
		団体数	利用者数	団体数	利用者数	団体数	利用者数	
昭和	53	1978	163	22,453	—	—	163	22,453
	54	1979	428	86,601	—	—	428	86,601
	55	1980	489	117,570	—	—	489	117,570
	56	1981	466	138,144	—	—	466	138,144
	57	1982	428	142,494	—	—	428	142,494
	58	1983	460	146,857	—	—	460	146,857
	59	1984	406	151,007	—	—	406	151,007
	60	1985	455	153,593	—	—	455	153,593
	61	1986	465	156,750	—	—	465	156,750
	62	1987	492	157,146	—	—	492	157,146
	63	1988	565	158,195	—	—	565	158,195
平成	元	1989	585	158,789	—	—	585	158,789
	2	1990	579	159,933	—	—	579	159,933
	3	1991	602	160,610	—	—	602	160,610
	4	1992	622	153,276	—	—	622	153,276
	5	1993	603	141,314	—	—	603	141,314
	6	1994	643	127,045	21	1,705	664	128,750
	7	1995	712	124,072	22	1,517	734	125,589
	8	1996	731	124,034	17	1,852	748	125,886
	9	1997	636	113,898	12	645	648	114,543
	10	1998	622	108,750	27	1,110	649	109,860
	11	1999	585	104,592	31	1,706	616	106,298
	12	2000	560	98,888	42	2,228	602	101,116
	13	2001	518	91,016	127	5,245	645	96,261
	14	2002	599	94,632	273	5,996	872	100,628
	15	2003	695	102,799	400	7,381	1,095	110,180
	16	2004	634	97,555	514	8,841	1,148	106,396
	17	2005	714	96,400	571	9,668	1,285	106,068
	18	2006	664	95,838	626	6,854	1,290	102,692
	19	2007	619	93,318	570	7,352	1,189	100,670
	20	2008	711	93,427	702	12,395	1,413	105,822
	21	2009	731	93,102	614	15,549	1,345	108,651
	22	2010	650	96,890	580	10,097	1,230	106,987
	23	2011	653	92,634	613	17,861	1,266	110,495
	24	2012	632	91,453	549	18,833	1,181	110,286
	25	2013	708	92,226	594	16,051	1,302	108,277
	26	2014	737	94,337	667	21,258	1,404	115,595
	27	2015	748	96,931	808	28,081	1,556	125,012
	28	2016	856	90,892	739	34,184	1,595	125,076
	29	2017	780	86,275	836	31,516	1,616	117,791
	30	2018	785	78,357	813	32,712	1,598	111,069
令和	元	2019	712	68,476	700	29,171	1,412	97,647
	2	2020	203	13,864	502	10,161	705	24,025
計			25,646	4,766,433	11,970	339,969	37,616	5,106,402

※昭和53年度～平成5年度の利用者数は現行とカウントの仕方が異なっていたために、現行の方法に合わせて試算しています。

(12) 傷病発生状況

① 内科系

	発熱	咳・喉の痛み	合計	割合 (%)
登山・ハイキング	1	1	2	20.0
オリエンテーリング・ウォークラリー	3	0	3	30.0
野外炊事	2	0	2	20.0
食事	2	0	2	20.0
入所前	0	1	1	10.0
合計	8	2	10	100.0
割合 (%)	80.0	20.0	100.0	

② 外科系

	きり傷	すり傷	打撲	脱臼	骨折	合計	割合 (%)
アドベンチャープログラム・イニシアティブゲーム	0	0	0	0	1	1	16.7
沢登り・沢遊び	0	0	1	1	1	3	50.0
野外炊事	1	0	0	0	0	1	16.7
入浴	0	1	0	0	0	1	16.6
合計	1	1	1	1	2	6	100.0
割合 (%)	16.7	16.7	16.7	16.7	33.2	100.0	

図15 状況別傷病発生率（内科系）

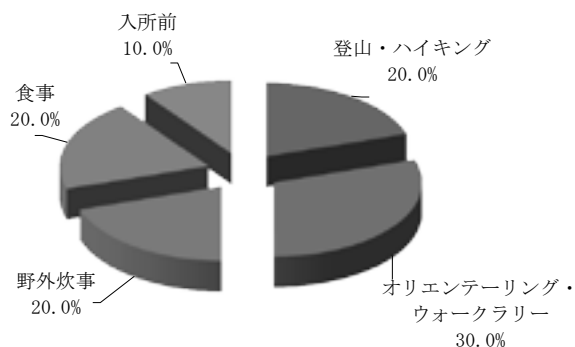


図16 傷病種類別発生率（内科系）

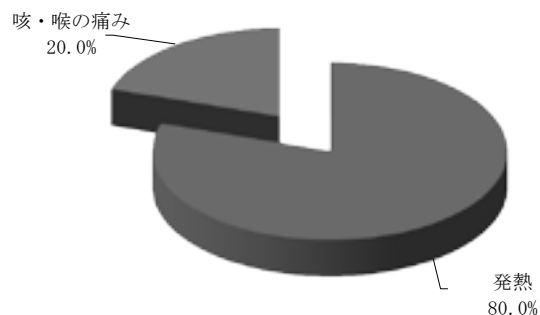


図17 状況別傷病発生率（外科系）

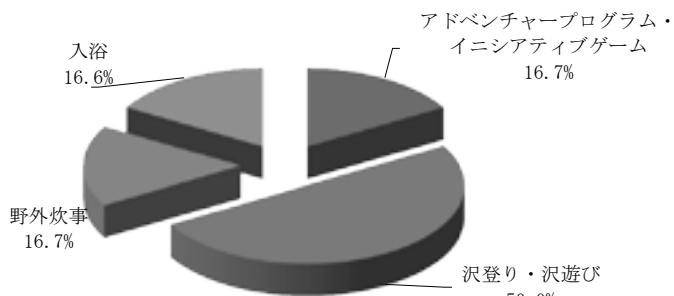
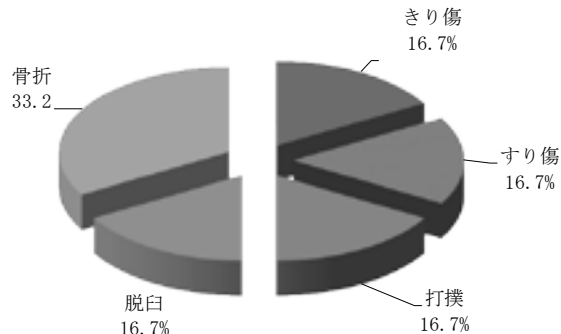


図18 傷病種類別傷病発生率（外科系）



2. 利用者の安全及びサービス面の向上のために

(1) キャンプ村の樹木伐採・照明・滅菌保管庫整備

キャンプなどの自然体験活動が子育て世代の家族の間で盛り上がりを見せる中、当所においても家族の利用が増加傾向にあり、家族でキャンプを楽しむ姿も多くみられるようになってきました。

しかしながら、当所のキャンプ村では豪雨や台風の影響もあり、枯死した松等が倒れかかっているなど、その整備が課題となっていました。

また、同じく台風や豪雨・落雷の影響で破損していたキャンプ村管理棟の外灯、野外炊飯場の照明設備、滅菌保管庫の修理も行いました。

今回整備を行ったことで樹木倒壊の危険がなくなり、照明設備や滅菌保管庫も復旧したことで安心・安全にキャンプ村を利用できるようになりました。今後も「キャンプの日」の周知・案内を行うなどして家族等のさらなる利用促進に期待が持てます。



(2) 第一駐車場前スロープの手摺改修

第一駐車場から本館2階入口へ通じるスロープの手摺について、経年劣化により錆が目立ち、耐久性も弱まっていたことから、改修を行いました。

改修により、安心・安全に通行できるようになりました。



(3) ロープスコース及びいこいの散策路の整備

「ロープスコース」に敷いているウッドチップが経年により腐食が進んでいたため、新しいウッドチップを補充して活動時の安全が確保できるようにしました。また、クロスカントリーコースとしても利用される「いこいの散策路」にウッドチップを敷き、走りやすいように整備しました。



(4) 自然環境学習館周辺の整備

「キャンプの日」の来場者が多くなったため、焚き火やテント設営ができるよう会場の自然環境学習館周辺の斜面を整地して平地を広げ、活動スペースを確保しました。



(5) キャンプ用品の活用

昨年度に購入したキャンプ用品について、家族でキャンプをより身近に感じられるように「キャンプの日」で活用するとともに、本館ロビーにも展示して、来所の際にもゆったりと過ごせる空間づくりを行いました。



(6) 体験活動や読書活動の推進基盤整備事業（子どもゆめ基金20周年記念事業）

地域で活動する団体や青少年団体等の体験活動や読書活動を推進するため、これら活動に必要な用具や本を整備しました。



(7) 体験活動の普及啓発動画制作事業（子どもゆめ基金20周年記念事業）

学校、青少年団体等の利用を通して、青少年の体験活動の普及啓発を目的に、活動プログラムや施設の紹介、集団宿泊学習の様子・効果等を紹介する動画を制作しました。

- ① 施設の紹介動画
- ② 体験活動PR動画
- ③ 活動プログラム紹介動画
(1「イニシアティブゲーム」編・2「沢登り」編・3「野外炊事」編)
- ④ 学校の集団宿泊学習の効果

① 施設紹介動画



② 体験活動PR動画



③-1 「イニシアティブゲーム」編



③-2 「沢登り」編



③-3 「野外炊事」編



④ 学校の集団宿泊学習の効果



3. 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、国からの緊急事態宣言や長崎県の対処方針^{*}を受け、4月17日から5月22日まで利用者の受入停止措置を行い、その後は、「新しい生活様式」の実践を徹底し、宿泊人数や活動内容、食事の対応等について、「3密」（密集・密接・密閉）の回避などの感染防止策を講じた上で利用者を受け入れました。 ^{*}国や県の動向、方針等については別表資料

(1) 「施設利用ハンドブック」の作成

「新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン（5月18日 国立青少年教育振興機構）」に基づき、施設独自のガイドラインを制定し、利用団体が安心して自然の家を利用できるよう利用者向けに施設が行う感染拡大防止対策や、利用にあたっての順守事項等についてまとめた「新型コロナウイルス感染拡大防止対策による施設利用ハンドブック」を作成しました。ホームページに掲載し、すべての利用者に関覧をお願いしました。（初版：6月1日作成、第2版：11月1日改訂）



(2) 掲示物等による感染防止対策の実施

感染防止対策のために、館内（宿泊室・研修室入口等）各所に手指消毒励行の掲示と合わせて消毒液を設置しました。

宿泊室は、定員を通常より約半数に減らし、ベッドや棚を対角で2色に色分けし、寝具（ベッド）を交互に使用することで、直近に使用した寝具（ベッド）を次に入所する団体が使用することがないように調整を行ったり、使い捨てシーツを使用するなどの感染防止対策を行いました。

混雑が予想されるレストラン内やレストラン入口は、間隔をおいて並べるよう、また指定のバイキングテーブルへスムーズに進めるよう床サインを設置し、同じバイキングテーブルを2団体が使用する際は、レストラン利用開始時間をずらして入場させるなどの対策を行いました。さらに、食事をするテーブルは半数の4人掛けとし、対面とならないようテーブルにマーキングをする形で座席を配置しました。



(3)「施設利用者説明会」の実施

新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた 施設利用者説明会

令和2年7月15日(水)、16日(木)、29日(水)

令和2年8月5日(水)、6日(木)、7日(金)

【担当：松元 延行】



1) 事業の背景

これまで、本所を利用する団体の引率責任者へは、事前に職員とのプログラム相談を受け付け、個別に利用方法の説明や活動プログラムの企画・立案の支援を行ってきました。

また、遠方地である福岡県大牟田市の小学校へは、大牟田市教育委員会の協力により、宿泊学習の担当者を一同に集めての合同説明会を開催しています(例年6月実施)。

令和2年2月頃から拡大しはじめた新型コロナウイルス感染症への感染拡大防止対策については、ホームページを通じて情報提供に努めてまいりましたが、各団体・学校等も保護者説明会での説明準備のため、詳細な問い合わせが多く寄せられ始めていました。

このため、小学校を中心に宿泊体験学習の利用を多く控えた夏期に、本所が行う新型コロナウイルス感染症防止対策を利用団体へ丁寧に説明する機会を設け、利用団体や各家庭の保護者の不安を払拭できるよう真摯に対応するとともに、利用団体に留意していただく内容を周知する機会を設定する必要があると考え、今年度急遽、施設利用者説明会を開催しました。

2) 事業の趣旨

利用予定団体の引率責任者に対して、当施設の新型コロナウイルス感染症防止対策を説明するとともに、利用団体に留意していただく内容を周知する。

3) 目標

- ① 本所が行う新型コロナウイルス感染症防止対策を周知する。
- ② 施設利用に関して、利用団体に留意していただく内容を周知する。
- ③ 各団体・学校が保護者説明会等で宿泊利用について説明できるよう情報を提供する。

4) 対象

利用予定の学校・団体等の引率責任者、行政・学校関係者 等

5) 事業の実施

① 期日

令和2年7月16日(木)、7月29日(水)、8月5日(水)、6日(木)、7日(金)

※令和2年7月15日(水)は、参加者なし

② 参加者

開催日	参加団体数	参加者数
7月16日(木)	1団体	1名
7月29日(水)	14団体	18名
8月5日(水)	19団体	27名
8月6日(木)	16団体	25名
8月7日(金)	13団体	27名
合計	63団体	98名

③ 日程

各実施日共通
14:00 開会 説明「新型コロナウイルス感染防止対策について」 (宿泊、食事、活動) 15:00 説明「活動プログラムの企画・立案について」 15:30 質疑応答、連絡事項 16:00 閉会 (希望者は個別相談 ※申込先着順)

④ 活動の様子

<p>【説明「新型コロナウイルス感染防止対策について」】 本所が作成した『新型コロナウイルス感染防止対策による施設利用ハンドブック』を用いて、宿泊、食事、活動別に感染防止対策を説明しました。 説明の後は、宿泊室やレストランで実際に行われている感染防止対策を直接見る機会を設け、どのように感染防止を行うのか確認してもらいました。</p>
--

<p>【質疑応答・個別相談】 説明の後は、全体での質疑応答を行い、疑問点や気になる点について、全体で共有しました。 保護者説明会等を控えている引率責任者からは、少しでも疑問点を残さないよう活発な質疑の時間となりました。 また、希望者は、閉会後に個別相談の時間を設け、各団体の活動日程や人数に合わせた利用方法について、職員へ相談を行いました。</p>
--

6) 評価

① アンケート結果 (説明会全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
73%	27%	0%	0%

② 参加者の声

- ・具体的な利用時の注意等がよく分かりました。
- ・様々な配慮がされていて安心しました。
- ・いろいろな不安や疑問がほぼなくなった。

7) 成果と課題

① 成果

説明会では、本所が行う感染防止対策を説明し、利用団体が抱える不安を拭うとともに、利用時に団体側に留意していただく内容を理解してもらうことを目的としました。

利用方法の変更点や留意点を資料にまとめ、丁寧に説明したことで、当施設の対応のみならず、引率責任者が行うべき内容も理解していただくことができ、結果として、秋の学校団体利用時においても、大きな混乱なく利用していただくことができました。

また、質疑応答を通して、利用団体として気にしている内容をスタッフが知ることでできたため、レストラン利用時の配膳方法、キャンセルポリシーの設定など、説明会後に利用方法の詳細な内容を新たに設定する契機とすることもできました。

そして、このコロナ禍において、利用団体が安心して施設を利用できるよう施設が説明責任を果たすことができたことが、何よりの成果だと考えています。

② 課題

説明会の企画・立案から実施までの事業準備期間に余裕がなく、参加対象者のニーズをあまり考慮できませんでした。また、説明会での密を避けるために特定の実施日に偏った希望を調整する等、参加希望日に答えられない状況もありました。

③ 今後の展望

学校団体の引率責任者は、毎年度新しい方に交代されることが多いので、この感染症が完全に収束するまでは、同様の説明会を引き続き実施していきたいと考えています。

また、利用団体の引率責任者からは、通常利用時の施設利用も説明会という形で開催して欲しいとの要望もあり、今後は、通常時利用時における合同説明会について検討していくこととします。

新型コロナウイルス感染症にかかる国や県の動向・方針及び本所の対応

発令等期日	組織	内容
2月27日	機構本部	文部科学省総合政策局からの新型コロナウイルス感染症への対応のため、令和2年2月28日から3月15日まで主催事業の中止及び団体受入れの停止措置の要請を受け各施設に要請
2月28日	本所	利用者受入れの停止及び教育事業の中止 令和2年2月28日～3月15日
2月28日	文科省	新型コロナウイルス感染症対策のための小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における一斉臨時休業について関係各所に通知
3月2日	長崎県	県立青少年教育施設5施設 高校生以下の入館制限 令和2年3月2日～4月7日
3月12日	機構本部	文部科学省総合政策局からの新型コロナウイルス感染症への対応のため、引き続き3月24日まで主催事業の中止及び団体受入れの停止措置の要請を受け各施設に要請
3月12日	本所	利用者受入れの停止及び教育事業の中止を延長 ～令和2年3月24日
3月14日	長崎県	長崎県内1例目の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に感染者確認
3月25日	本所	利用者の受入れ再開 令和2年3月25日
3月26日	本所	5月までの教育事業を中止又は6月以降に延期
4月6日	長崎県	県立青少年教育施設5施設 児童生徒の利用停止 ～令和2年4月19日
4月7日	政府	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、兵庫県、及び福岡県の7都府県に緊急事態宣言 令和2年4月7日～5月6日
4月16日	政府	緊急事態宣言 実施すべき地域を全都道府県に変更
4月17日	機構本部	機構本部より緊急事態宣言を受けて利用団体の受入れ停止と教育事業の中止を各施設に要請
4月17日	本所	利用者受入れの停止及び教育事業の中止 令和2年4月17日～5月6日
4月17日	長崎県	県立青少年教育施設5施設 臨時休館 令和2年4月18日～5月6日
4月17日	長崎県	県立学校臨時休業 令和2年4月22日～5月6日
4月17日	県内市町	県内各市町公立学校臨時休業 令和2年4月22日～5月6日
4月23日	長崎県	長崎港停泊中の大型クルーズ船「コスタ・アトランチカ」で新型コロナウイルス感染症のクラスター発生
4月28日	長崎県	県立学校臨時休業 令和2年5月10日まで延長
4月28日	県内市町	県内各市町公立学校臨時休業 令和2年5月10日まで延長
5月4日	政府	全都道府県の緊急事態宣言の延長 ～令和2年5月31日まで
5月5日	長崎県	学校再開(部活動再開) 令和2年5月11日～
5月5日	長崎県	県立青少年教育施設5施設 臨時休館 ～令和2年5月24日
5月7日	本所	利用者受入れの停止期間の延長 ～令和2年5月31日
5月14日	政府	緊急事態宣言区域の変更 北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、京都府、大阪府、兵庫県
5月18日	機構本部	新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを制定
5月21日	政府	緊急事態宣言区域の変更 北海道、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
5月23日	本所	日帰り利用者の受入れ再開(長崎県内在住者のみ) 令和2年5月23日～5月30日
5月25日	政府	緊急事態宣言解除
6月1日	本所	新型コロナウイルスに係る「国立諫早青少年自然の家」の対応について(本所ガイドライン)の制定
6月1日	本所	宿泊利用者の受入れ再開 令和2年6月1日～
6月26日	本所	新型コロナウイルス感染防止対策による施設利用ハンドブックを作成
8月7日	機構本部	新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインを改訂(8/6)
9月1日	本所	キャンセルポリシーを設定
11月1日	本所	食数と食事の変更期限を改定
11月1日	本所	新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐために、レストラン食の提供方法が、「バイキング」から「すべての料理をお皿に盛って提供」に変更
11月1日	本所	新型コロナウイルス感染防止対策による施設利用ハンドブック(第2版)を更新
12月14日	長崎県	県内の感染段階ステージを【ステージ1】から【ステージ2】に移行するとともに県下全域に注意報を発令
12月23日	長崎県	県内の感染段階ステージを【ステージ2】から【ステージ3】に移行するとともに県下全域に警戒警報を発令
1月4日	本所	新型コロナウイルス感染症の県内感染拡大のため、令和3年1月の教育事業を中止
1月6日	長崎県	県内の感染段階ステージを【ステージ3】から【ステージ4】に移行するとともに県下全域に特別警戒警報を発令
1月7日	政府	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県に緊急事態宣言 令和3年1月8日～2月7日
1月13日	政府	栃木県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県に緊急事態宣言 令和3年1月14日～2月7日
1月22日	本所	新型コロナウイルス感染症の県内感染拡大のため、令和3年2月・3月の教育事業を中止
2月2日	政府	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、岐阜県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、福岡県について緊急事態宣言の延長 ～令和3年3月7日まで
2月8日	長崎県	県下の感染段階を特別警戒警報(ステージ4)から警戒警報(ステージ3)に切り替え。 病床がひっ迫している長崎市・佐世保市では、特別警戒警報を継続。
2月12日	本所	新型コロナウイルス感染症による社会情勢に伴う利用者の大幅な減少によりレストラン及び売店業務の継続が困難となったため、レストラン及び売店業務の一時休止 令和3年2月12日～3月11日
2月22日	長崎県	県全体の感染段階を【ステージ3】から【ステージ2】に切り替え。 長崎市は【ステージ4】から【ステージ2】に、佐世保市は【ステージ3】に切り替え、両市の不要不急の外出自粛要請を終了
2月27日	長崎県	直近の感染状況を踏まえて、佐世保市を含め、県全体の感染段階を【ステージ1】に切り替え
3月5日	政府	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県について緊急事態宣言の延長 ～令和3年3月21日まで
3月18日	政府	3/21に埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県について緊急事態宣言の終了する旨公示

4. 令和2年度施設業務運営委員会

(1) 委員名簿

	氏名	職名
1	大野幸雄	諫早市PTA連合会会長
2	小原達朗	長崎大学名誉教授
3	近藤真紀	福岡県教育庁教育振興部社会教育課主幹社会教育主事
4	坂井広典	佐賀県県民環境部まなび課生涯学習・体験担当係長
5	佐藤小百合	諫早市教育委員会生涯学習課課長
6	高比良由紀	長崎新聞社諫早支局支局長
7	立木貴文	長崎県教育庁生涯学習課課長
8	野口美砂子	NPO法人インフィニティー理事長
9	栢山ゆずる	長崎県福祉保健部こども政策局こども未来課指導主事
10	馬場耕成	諫早市立小長井小学校校長
11	松尾孝一	一般財団法人長崎県子ども会育成連合会事務局長
12	水田明光	一般社団法人長崎県保育協会副会長
13	山田秀人	長崎県青少年教育施設協議会会長

(委員氏名50音順)

平成30年度から、地域における体験活動の充実を図るとともに、地域と施設が一体となった管理運営を目指すため、地域の青少年教育団体・NPO・企業・自治体等多様な主体が、施設の管理運営や事業の企画・実施へ参画する形の「運営協議会」方式を導入しました。

また、令和元年度から施設業務運営委員会のもとに、「事業推進・連携部会」及び「利用促進・広報部会」を設けることとしました。

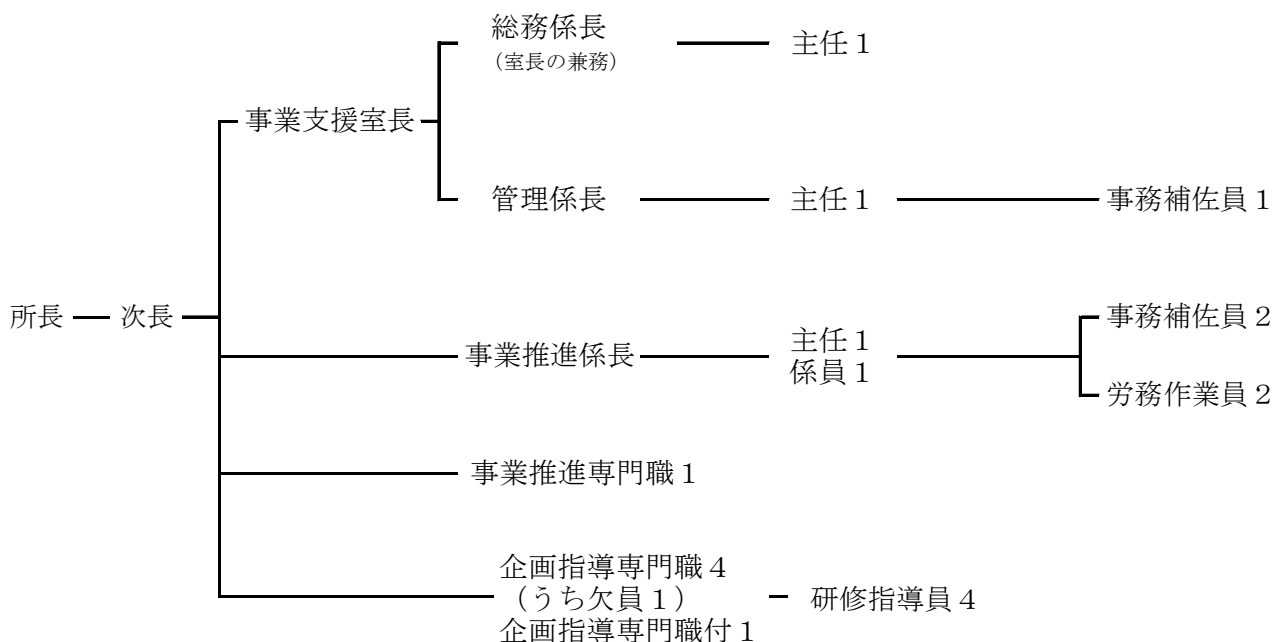
(2) 開催状況

令和2年度の施設業務運営委員会実施状況は下表のとおりです。

期日	議題
通年	(1) 令和2年度計画について (2) 令和2年度事業等報告 ①事業概要 ②利用概要 ③施設管理状況 今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえ対面会議を中止し、各委員と随時連絡を取りながら施設業務運営を行いました。

5. 組織図・職員名簿(令和3年3月現在)

(1) 組織図



所長 1	次長 1	室長 1	係長 2	専門職 5 (うち欠員 1)	専門職付 1	主任 3・係員 1	非常勤職員 9	合計 24
------	------	------	------	----------------	--------	-----------	---------	-------

(2) 職員名簿

職名	氏名
所長	中島 修
次長	力丸 資

職名	氏名
事業支援室長(兼)総務係長	田崎 雅徳
総務係主任・係員	(主任)吉田 誠
管理係長	徳永 良宏
管理係主任・係員	(主任)高木 将秀
事務補佐員	川久保 由美子

職名	氏名
事業推進専門職	東島 憲之

職名	氏名	
事業推進係長	上戸 正仁	
事業推進係主任・係員	(主任)樋口 達也	和泉 志帆
事務補佐員	中島 康子	吉良 麻由美
労務作業員	辻 正則	浅井 勝也

職名	氏名		
企画指導専門職	松元 延行	小野 栄策	大嶋 和幸
企画指導専門職付	園部 翔		
研修指導員	岡部 一樹	大串 陽水	辰野 光亮
	吉原 裕介		

令和3年度事業計画一覧(案)

No	事業名	事業趣旨	期日	対象	人数(人)	備考	
1 青少年教育に関するモデル的事业							
ア 実践研究事業							
1	スタートアップキャンプ	中学校進学を目前に控えた子供たちが、自然体験活動などを通して自分のことを肯定的に捉え、新しいことや困難なことにもチャレンジしようとする意欲を高め、よりよい新生活を送れるようにする。	2/11(金)～2/13(日)	小学6年生	50	後援:長崎県教育委員会	
イ 地域の実情を踏まえた特色あるプログラム事業(特色化事業)							
2	シャワーライミングキャンプ	自然体験活動などを通して、自然体験への関心を高めるとともに、友達と協力することの大切さに気付く。また、当施設の活動プログラムある沢登りとイニシアティブゲームの教育効果を整理する。	7/10(土)～7/11(日)	小学5年生	30		
ウ 地域探求プログラム							
3	全国高校生体験活動顕彰制度「地域探求プログラム」オリエンテーション合宿	高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動をおして、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高める。	7/22(木・祝)～7/24(土) (調整中)	連携先高等学校 (調整中)	60 (調整中)		
2 社会の要請に応える体験活動等事業							
ア 親子・幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ機会と場を提供する事業							
4	タラッキーキャンプ	秋の自然を感じる自然体験活動を通して自然に親しむ心を育む。また、異年齢集団の中で小グループを作り、規則正しい生活を送る中で社会性や自立心を育て、「早寝早起き朝ごはん」の定着を促すとともに、自然体験活動の成功体験を積み重ねることによって自他を大切にす心や積極性、協調性を育む。	9/4(土)～9/5(日)	小学1～2年生	60		
5	子ども体験フェスティバル2021 in 長崎 子ども体験フェスティバル2021 in 佐賀	様々な体験活動を通して、体験活動の楽しさを体感してもらうとともに、体験活動の重要性の普及と啓発を図る。また、本事業の取組を通じて、関係団体との連携をより一層緊密にし、地域における体験活動の定着・発展を推進する。	【長崎編】 10/23(土)～10/24(日) 【佐賀編】 調整中	幼児や小・中・高・大学生のいる家族、学童クラブ等	2,000	共催:諫早市こどもの城、コスモス花宇宙館、佐賀県黒髪少年自然の家、佐賀県波戸岬少年自然の家、佐賀県北山少年自然の家	
6	家族で山をさるこう会	美しい自然の残る多良山系の登山を通して、自然に親しむとともに、参加者同士の親睦を深め、生きがいづくりと健康づくりの一助とする。	①諫早5/22(土)～5/23(日) ②千々石10/2(土)～10/3(日) ③天地12/11(土)～12/12(日) ④世知原3/12(土)～3/13(日)	登山ができる方	各20		
7	諫早市通学合宿	当所職員が、諫早市内の通学合宿に指導者として参画することで、地域における体験活動の推進を図る。	9～10月	小学生	各20	共催:御館山小学校校区通学合宿実行委員会、長田小育友会	
イ 青少年を対象に体験活動を通じた自己成長や自己実現等を図る事業							
	「スタートアップキャンプ」を同一の事業として位置付け						協力:県内の母子葬婦会
ウ 防災・減災教育事業							
8	限界突破!ブチサバイブキャンプ	災害から身を守るために必要な知識・技能を身につけ、防災に対する真摯な態度の育成を図る。また、災害時に想定される避難所生活の疑似体験を通して、主体的に判断し行動する力や、互いに助け合う心情を育む。	8/21(土)～8/22(日)	小学4～中学3年生	30		
エ 環境教育や人権教育などのESDに対応した事業							
9	木育キャンプ	次代を担う子供たちに対し、木についての様々な体験を通して理解を深め、自然に親しむ心情や社会性を育てるとともに、森林や環境問題に対する正しい理解の基礎を育み、持続可能な社会づくりの担い手育成の一助とする。	①日吉10/16(土)～10/17(日) ②西岐11/8(土)～11/7(日) ③黒髪1/23(日) ④北山2/26(日)～2/27(日)	小学4～中学1年生	各40	共催:長崎県緑化推進協会、西岐青年の家、日吉自然の家、佐賀県黒髪少年自然の家	
オ 健康教育や主権者教育など政策課題に対応した教育事業							
カ その他							
10	子どもゆめ基金助成金募集説明会	子どもゆめ基金助成金募集説明会を開催し、広く当基金の存在を周知することで、体験活動を推進する機運の向上を図る。	①9/11(土) ②9/12(日)	青少年団体関係者等	各20	協力:長崎県教育委員会、佐賀県教育委員会(予定)	
3 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業							
ア 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業							
12	生活・自立支援キャンプⅠ (児童養護施設の子ども支援事業)	児童養護施設の子供たちが、自然体験や生活体験を通じて、自尊心を高めるとともに、体力の向上及び基本的な生活習慣の定着を図る。	8/10(火)～8/12(木)	児童養護施設の児童生徒	40	対象:済昭園	
13	生活・自立支援キャンプⅡ (ひとり親家庭の子ども支援事業)	ひとり親家庭の子供たちが共同宿泊生活体験を通して、「早寝早起き朝ごはん」・「家庭学習の習慣」といった基本的な生活習慣や、家庭で生かせる献立作りや調理法・栄養バランス等の「食育」に関する知識・技能を身につけ、できる体験を積み重ねることで、自尊心を高める一助とする。	1/8(土)～1/10(月・祝)	ひとり親家庭の児童	各40	協力:県内の母子葬婦会	
14	不登校・引きこもり等の課題を抱える青少年の支援事業 「自然の家にきてみんね」	自然の家での様々な体験活動を通して、不登校、引きこもりなどの課題を抱える青少年に自然体験活動の楽しさや達成感を感じさせ、自己肯定感や自己有用感を高める。また、他者との交流や自然の家での規則正しい生活を通して、基本的な生活習慣づくりのきっかけとする。	通年 (通常期:毎週月曜日) (閉歇期:常時相談)	不登校・引きこもり等の児童・生徒	-		

令和3年度事業計画一覧(案)

No	事業名	事業趣旨	期日	対象	人数(人)	備考
4 グローバル人材の育成を見据えた国際交流事業						
ア 日独の青年及び青少年指導者等の交流事業						
	※本部主催の国際交流事業が主					
イ アジア及びミクロネシア地域の青少年交流事業						
	※本部主催の国際交流事業が主					
ウ 国内での国際交流事業(イングリッシュキャンプ等)						
15	イングリッシュキャンプ	自然体験活動の中で、英語を聞いたり話したりすることを通して、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感させるとともに、言語や文化について理解を深める。	10/2(土)9:00~15:00 日帰り	諫早市内の小学3~4年生	30	諫早市教育委員会委託事業
5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業						
ア 青少年指導者等の養成・研修事業						
a 自然体験活動指導者(NEAL)養成事業						
16	NEALリーダー養成事業	自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者(NEALリーダー)の資格取得に必要な講習会(概論Ⅰ)を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。	9/18(土)~9/20(月・祝)	青少年教育・学校教育関係者、大学生	20	
b 教員免許状更新講習						
17	教員免許状更新講習	新学習指導要領で示された「体験活動の充実」を踏まえ、体験活動に関する理解をより一層深めることで、教育内容の充実に資する。	①8/28(土) ②9/11(土) ③10/2(土)	教員(受講対象者)	各40	共催:長崎大学
c その他						
18	グループをチームに育てるプログラム研修会(体験編)	グループの力を生かす体験活動プログラムの体験を通して、基本となる手法や理論の習得を図る。	佐賀編 5/29(土) (波戸岬少年自然の家) 長崎編① 6/26(土) 長崎編② 8/25(水)	教員、施設職員、大学生等	各30	共催:福岡県立社会教育総合センター、佐賀県北山少年自然の家
イ ボランティアの養成・研修事業						
a ボランティアの養成事業						
19	自然体験活動ボランティア養成研修	青少年の体験活動事業で活動するボランティアスタッフに求められる基礎的な知識・技術を習得するとともに、ボランティア活動への参加意欲を高める。	6/19(土)~6/20(日)	高校生、高専専門学校生、大学生、社会人	30	NEALリーダー・カリキュラムの読み替えあり
b ボランティアの研修事業						
c ボランティアによる自主企画事業						
20	ボランティア自主企画事業	ボランティア自身が主体的に企画・実施する自主企画事業を通して、法人ボランティアの活躍の場や機会の充実を図り、ボランティアを育成する。	未定	未定	未定	
※ 研修支援関係						
21	キャンプの日	毎月第3日を「キャンプの日」に制定し、キャンプ等の自然体験活動を推進する機運を高め、家族等の利用促進を図る。	毎月第3日曜日 ※前日土曜日からの宿泊あり デイキャンプを実施	幼児や小・中・高・大学生のいる家族	土は4家族 日は制限なし	
22	諫早市少年センター(適応指導教室)	体験活動を通して、協調性・自主性・耐性・感謝の気持ちを育てる。	①8/2(水)~6/3(木) ②9/10(金) ③10/14(木)~10/15(金) ④11/16(火) ⑤12/8(水) ⑥2/4(金)	適応指導教室に通う児童及び生徒	各10 程度	
23	大牟田市昭和教室(適応指導教室)	体験活動を通して、協調性・自主性・耐性・感謝の気持ちを育てる。	9/27(月)~9/29(水)	適応指導教室に通う児童及び生徒	10	
24	新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた施設利用者説明会	利用予定団体の引率責任者に対して、当施設の新型コロナウイルス感染症防止対策を説明するとともに、利用団体が留意していただく内容を周知する。	①5/26(水) ②6/4(金) ③7/29(木) ④8/5(木)	利用予定の学校・団体等の引率責任者、行政・学校関係者等	各45	
25	小学校宿泊体験学習習担当事前研修会	諫早青少年自然の家を利用して宿泊体験学習を実施する小学校が、目的やねらいを明確にした、より教育効果の高い活動プログラムを計画できるようにするために、各校の担当者を対象とした事前研修及びプログラム調整会を行う。	6/11(金)	本施設利用の大牟田市及びみやま市立小学校の担当者	-	

令和2年度 国立諫早青少年自然の家 所報
令和3年6月

編集・発行 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立諫早青少年自然の家
〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町1109-1
TEL:0957-25-9111 FAX:0957-25-9115
URL: <https://isahaya.niye.go.jp/>
E-mail: isahaya-so@niye.go.jp

「早寝早起き朝ごはん」国民運動

地域社会・学校・家庭が一体となって、心身ともに健康な子供たちの育成を目指す運動です。

- 望ましい生活習慣の育成
- 生活リズムの重要性の再認識
- 学習意欲・体力・気力の向上
- 地域ぐるみで支援するための環境整備
シンボルマークの使用など、詳しくは全国協議会のホームページをご覧ください。

早寝早起き朝ごはん

検索



「体験の風をおこそう」運動

社会が豊で便利になる中で、子供たちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している状況を踏まえ、子供たちの健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝え、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。
詳しくは「体験の風をおこそう」運動のホームページをご覧ください。

体験の風をおこそう

検索



【多良山系・五家原岳】

「国立諫早青少年自然の家」が位置する「多良山系・五家原岳」は、山頂から東に「有明海」西に「大村湾」南に「橘湾」と三つの海、諫早干拓、雲仙岳、周辺の美しい山なみが眺望できる景観の地です。

周辺には、豊かな水に育まれた針葉樹林が広がり、多くの野鳥や動物たちが生息しております。

また、市街地より比較的近距离で交通アクセスにも恵まれながら、深い暗闇に包まれた大自然の中で美しい星空を観測できる場所は国内でも稀で、貴重な観測ポイントとされています。

「国立諫早青少年自然の家」施設内では、特に自然体験・生活体験施設である「キャンプ村」が、森林内に位置するため、「流れ星を観測できた」との報告が多く聞かれるスポットのひとつです。